

# 事業報告書

令和元年度

社会福祉法人 あかりの家  
理事長 西尾 淳

2019(R.元)年度

# 障害者支援施設 あかりの家 事業報告書

2020. 3. 31 現在

## 2019(H.31)年度 障害者支援施設 あかりの家 実施事業

事業名		事業開始年月日	
①	障害者支援施設あかりの家	施設入所	'86(S.61). 4. 1
		生活介護	
②	短期入所	'86(S.61). 9. 1	県指定
③	地域生活支援事業 日中一時支援事業(日中短期)	'07(H.19). 4. 1	6市2町?委託事業
④	障害児等療育支援事業	兵庫県	'07(H.19). 4. 1
		姫路市	'08(H.20). 4. 1
⑤	被虐待障害者一時保護支援業務	高砂市	'13(H.25). 6. 1
		播磨町	'14(H.26). 4. 1
		稲美町	'17(H.29). 3. 1
⑦	強度行動障害地域生活支援事業 (新)	兵庫県	'20(R.2). 10. 1

- <他>①グループホーム「希望山荘日笠」('02(H.14).10.1)「オリーブの家」('15(H.27).10.1)「友愛の家」('17(H.29).4.1)の連携施設  
 ②連携施設「友愛の家」('17(H.29).4.1)との一体的な運営  
 ③ 附置施設「ひょうご発達障害者支援センター クローバー」('03(H.15)12. 1)  
 ④わかば学園(加古川)グループホーム連携施設('12(H.24). 2)  
 ⑤高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.26). 11)  
 ⑥日本自閉症スペクトラム学会 資格認定実習施設('15(H.27). 1)

### I 利用者状況('20年3月31日現在)

#### あかりの家利用契約者の分類(あかりの家独自の分類)

	呼称	
あかりの家 所属利用者	①入所者	日中は生活介護、WHに通う1名は生活介護と就労B併給(行政調整有)
	②通所者	生活介護 ⑥通所 ⑦ロングショート等は、行政と調整の上、夜はショート、日中は生活介護で契約。あかりの家に所属。通所者として扱い、保護者会活動に参加。
あかりの家 所属とはし ない利用 者	③ショート生活介護	ショートステイか日中利用者の内、有期の療育目的や定期的な日中利用等のケースは、行政と調整し、泊はショート、日中は生活介護などとして契約しているところは上の⑦と同じであるが、保護者会活動などに参加しない利用者は、あかりの家所属とはせず、「ショート生活介護」としている。
	④ショートステイ	泊を伴う
	⑤日中一時	日中のみ

以下のデータは、「あかりの家に所属」の、上記①、②の利用者を対象とする

1 定員と現員 2020年3月31日現在

定員	現 員	
40名	施設入所	40名 (男31、女9)
	生活介護 (①+②)	49名 (男40、女9)

入所者 40 (男31、女9)  
通所者 9 (男9、女0)  
通所者内訳 ; 自宅から3、GH 友愛の家から5、ショート系⑦1  
内、入所利用者1名は、あかりの家の「生活介護」に籍を残したまま、日中はWH 高砂の「就労B」を利用。  
生活介護利用者は、49名とあるが、1日当たり40名を超えることはない。

なお、「ショート生活介護 (③)」契約者はここではカウントしていない。3月末現在、該当契約者4人。

2 利用者出身地(受給者証発行市町) 2020年3月31日現在

実施機関	利用者数		実施機関	利用者数	
	入所者	通所者		入所者	通所者
高砂市	4	3	神戸市	11	
加古川市	13	3	尼崎市	2	
播磨町	3	1	名古屋市	1	
姫路市	5		枚方市		1
小野市	1		神河町		1
加東市	1		合計	40	9

<入所>  3/9神戸市から男1名入所

上の表ではカウントしていない、(あかりに籍を置かない生活介護契約者(分類の③「ショート生活介護」)

‘18年3月末現在、4名 (加古川市、播磨町、姫路市、東京都)

‘18年度途中で契約し解除した利用者3名(播磨町、姫路、岡山)

3 利用者年齢 ( )は、通所者で内書 3月31日現在

年齢	10代			20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		合計 (人)
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	~69			
男	0	2(2)	1	3(2)	1(1)	5(1)	14(2)	11(1)	3	0	0		40(9)	
女	0	0	1	0	0	0	3	4	0	0	1		9	
合計	0	2(2)	2	3(2)	1(1)	5(1)	17(2)	15(1)	3	0	1		49(9)	
(計)	0	4(2)		4(3)		22(3)		18(1)		1			49(9)	

最年少21歳(前年度比+1)、最年長65歳(前年度比+1)、平均46.1歳(前年度比+0.8)

入所利用者平均年齢47.6歳(前年度比+0.3)

4 障害等の程度 ( )は通所者で内書 3月31日現在

(1) 知的障害の程度(「療育手帳」の判定による)

	重度(A)	中度(B <sub>1</sub> )	軽度(B <sub>2</sub> )	合計(人)
男	39(9)	1	0	40(9)
女	9	0	0	9
計	48(9)	1	0	49(9)
比率	98.0%	2.0%	0%	100%

(2) 障害支援区分 平均支援区分 5.65

	区分6	区分5	区分4	区分3	合計(人)
男	31(5)	5(1)	4(3)	0	40(9)
女	5	4	0	0	9
計	36(5)	9(1)	4(3)	0	49(9)
比率	73%	18%	8%	0%	100%



(3) 自閉症または自閉的傾向を有する者、( )は通所で内書

	男	女	計
入所	30名/31名	5名/9名	35名/40名
通所	8名/9名	0名/0名	7名/9名
合計	38(8)人/40(9)人中	5人/9人中	43(8)人/49(9)人中
比率	95.0%	55.6%	87.8%

(4) 重度加算

	入所		通所		総計
男	29人	94%	6人	67%	88%
女	8人	89%	—	—	

(5) その他の障害

		男	女	計	総計
肢 体	手帳所持	0	0	0	1
	不所持	1	0	1	

5 入退所の状況(あかりの家在籍者)

	年度	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03
入所	入	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所	入	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	11	0	0	1	/
	退	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0	12	/
合計	入	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	11	0	0	1	0
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0

	年度	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計
入所	入	2	1	1	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0	3	0	1	74
	退	2	1	2	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	0	34
通所	入	/	/	/	/	1	0	1	0	2	3	0	1	0	4	1	0	25
	退	/	/	/	/	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	16
合計	入	2	1	1	1	1	2	2	0	4	3	0	1	0	6	1	1	99
	退	2	1	2	0	1	1	2	1	1	0	1	1	1	3	1	0	50

※①1986年4月 あかりの家開所'

年	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24 ~14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	計
男	14	1	2	2	2	2	1	1	0	1	0	2	1	1	1	0	0	2	1	1	0	1	3	0	1	40
女	2	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	9
計	16	2	3	2	3	3	1	1	0	1	0	2	1	1	2	0	0	4	1	1	0	1	3	0	1	49

②1999年4月 四郷分場開所、閉所WH開所に伴い2003年3月(形式上、分場利用者退所)

③2008年4月 新体系に移行し、通所利用者受入れ。

④2013年4月より、あかりの家に籍を置く日中を生活介護契約の短期入所利用者等は、通所者として計上。

⑤2017年4月 GH友愛の家開所

6 在籍年数(通所者を含む。通所から入所等への移行者は通算。4/1入所は翌年3/31で在籍満1年とする)

全利用者平均在所年数23.3年 / 男子平均年数23.0年 / 女子平均年数24.4年  
 入所者平均在所年数 26.5年 / 入所男平均年数27.1年 / 入所女平均年数24.4年  
 通所者平均在所年数 8.9年 / 通所男平均年数 8.9年 / 通所女平均年数 — 年



## Ⅱ 生活の概況

### 1 日課(月～金)

6:30	起床
8:00	朝食
8:30	歯磨き、清掃(引継ぎ)
(9:00)	職員引継ぎ)
10:00	ランニング、お茶・牛乳
10:30	作業
12:00	昼食(一部作業班は外食)
13:30	作業
15:15	ティータイム
15:30	入浴(毎日)・自由時間
17:30	夕食
21:00	就寝

土日祝、ランニングや作業なし  
非帰省日の土曜日にはクラブ活動実施  
隔週で、週末帰省日設定(希望者)

### 2 余暇活動

- ①夜の時間帯 絵描き、工作、パズル、雑誌、ドリル等の学習、トモニ100並べ、クロスステッチなど。
- ②担当者による任意の買物や喫茶店行、散髪、作業工賃での自販機やコンビニでの買物、喫茶店行等
- ③ボランティアグループ・秋桜会による「あかり喫茶」(飲み物とケーキ。月1回、第三金曜日中心)
- ④祝祭日や週末など、休日のドライブや散歩及び喫茶店などの外出

### 3 療育活動

#### (1)トモニ活動・・・トモニ活動チーム4人を中心に活動(13年度より実施)

トモニ療育研修で、河島先生・高橋先生から教えて頂いたことを日常の中で実践。

- ①平日課題学習 数字(100並べ、タイル並べ)、時計、お金、本読み、漢字、折り紙、書き取り等  
月曜日と木曜日の午後に、マンツーマンでの課題学習を行う。

月曜日は一年を通してOさん、Kさん、木曜日はAさんの計3名利用者の課題学習を行った。

Oさんは数字100並べ、数字書きとり等を通しての数字、数列理解の学習の他、クロスステッチや、詩の書き取りなどの活動をしてきた。

Kさんはお金の学習を中心に取り組み、クロスステッチなどの創作活動も行ってきた。

Aさんは時計学習とお金の学習を一年間取り組み、買い物の練習も行ってきた。

#### (2)料理活動

従来、トモニ活動の一環として料理活動を実施していたが、独立した活動としている。

あかり祭りや忘年会などの行事料理や、バレンタインデーなどのお菓子作り、休日の余暇活動の中での料理作りなどの活動をした。

#### (3)体操活動

毎水曜日、隔週土曜日 13:30～15:00 に活動。ダイナミックリズム(DR)や模倣運動を中心に実施。療育的な意味に加え、職員育成、特に新人職員研修を狙っている。現場において集団全体を見る力をつける機会としても考えている。目の前で、利用者の変化を実感しやすい活動になっている。

### 4 クラブ活動

	参加者	実施状況	指導者	実施内容
華道	5人	月2回 隔週、土曜 午前1時間	松尾豊華先生(ボランティア)	92年10月開始。松尾先生(小原流家元)購入の花を先生指導のもと活ける。活けた花は玄関や交流ホーム、クローバー、事務所等に飾る。
音楽	8人 + 随時	月1回 (8月は休み) 土曜 or 日曜 13:30～1時間	永江きよみ先生(ボランティア)	98年10月開始。音楽療法として「音楽の特性を生かして、心と心を響かせあう。」宮本啓子音楽療法を勉強中の永江先生が中心になって始まる。ダンス、歌、リズムなど体感するものや楽器等を通じて表現するものなど幅広い。 1月は先生の都合により予定日変更の希望有り、予定が合わず中止。3月はコロナウイルスの影響で中止。

アート	3人	月1回 木曜日 午後1時間	安部武先生 (ボランティア)	99年1月開始。粘土、自由絵、また季節的な凧作り・面作りなどの創作活動を実施。高砂市美術展、洋画家連合会などに出展。交流ホーム1F(04.10より)をアトリエとして使用。 6月正木さん洋画家連合会に友情出展(イーグレ姫路) 12月正木さん播磨の国グループ展支援出品(かこむ) 2月正木さん高砂市美術展2020入選
-----	----	---------------------	-------------------	---

## 5 行事関係

### (1) 一般行事(主な行事)

月	行事名	月	行事名
5	第12回のじぎくスポーツ大会(三木市)	11	加古川ツーデーマーチ
	第30回ばんたん親善運動会(加古川市)		第28回ばんたんゆうあい文化祭(見学)
8	第29回あかりまつり	12	第32回高砂マラソン
10	親子一泊旅行(京都方面)※		第27回ナイスハートバザール(高砂アスパ)
		1	もちつき会

※ 親子一泊旅行 日程 10月19日(金)～10月20日(土)

参加者 ;利用者44名(あかりの家39名、友愛の家5名) 保護者35名 職員33名(計、112名参加)  
行き先 ;京都方面

### (2) グループ別小旅行「レインボーデイ」

小グループ(原則利用者2に支援員2)に分け、各担当の企画で県内外を日帰り旅行。「療育の成果を生活に返していく」趣旨で、原則公共交通機関(電車、バス)を使用して実施。身体に負担のかかる2人は公用車利用利用。

3月のレインボーデイは新型コロナウイルスの関係で中止。

天王寺動物園、通天閣、神戸布引ハーブ園、有馬温泉、有馬ます池、京都鉄道博物館、京都タワー、潮芦屋温泉スパ小春、垂水温泉大平の湯、みとろ荘、神戸北野工房のまち、棉屋、神戸市立王子動物園、むべ陶房陶芸教室、神戸生田神社、造幣博物館、グリコピア神戸、とんぼ玉ミュージアム

### (3) スポーツ行事

①播淡親善運動会 5/31(金) 於、加古川運動公園陸上競技場 5人参加

雨天のため競技は午前中で終了。

②のじぎくスポーツ大会(5月25日三木市防災総合運動公園陸上競技場) 保護者応援は、なし・見学  
100m走:0人、800m走:1名、走り幅跳び:0人、フライングディスクアキュラシー(5M):6人が出場。

フライングディスクアキュラシー(5M) 金メダル3人 銀メダル0人 銅メダル1人

③第32回高砂マラソン (12月1日、加古川河川敷マラソンコースにて実施)

5km 3人(丸山、天春、奥谷)、1.6km ジョギング 2人(網井、竹中) 計5人出場

④加古川ツーデーマーチ11/10日) 利用者7人参加(5回目参加)

### (4) あかり喫茶

帰省日のない最終金曜日午後、ボランティアグループ秋桜会(5、6人)の応援で、毎月実施。随時グループで参加し、アサヒ班は午後の作業を早めに切り上げて参加。

写真で飲み物(コーヒーやジュース、コーラ等)を選び、ケーキ類も何種類から選ぶ。

2、3月は、新型コロナウイルスの関係で、内部で実施。

## 6 設定帰省等

保護者会の希望により、開設時から毎週末2泊3日実施。3年目途中より隔週2泊3日帰省、

05年度より隔週1泊2日となる。帰省は希望により自由、期末帰省を更に短くする。

①週末帰省(隔週末1泊2日原則) 毎週末帰省2人程度、2泊帰省4人程度、帰省なし11人程度、月1帰省2名

②期末帰省(夏季5日間、冬季7日間、春季5日間(新型コロナウイルスの関係で未定)) 期末帰省なし11人

新型コロナウイルスの関係で、3月の帰省は急遽中止とした。



7 生活環境の整備、備品等の購入設置

- (1) 環境整備（草刈り）；保護者会協力の下、職員、利用者、保護者で 10月5日（土）に実施  
 (2) 備品の購入；電気設備キュービクル設置、門扉 フェンス取り換え、駐車場整備（土入れ）

Ⅲ 作業の概況

1 作業内容（月曜日午後、火曜日から金曜日の午前午後作業）利用者40名 通所9名 計49名

(1) 施設内作業・3月末現在（4作業種37人）

割り箸班	8人	軽作業棟。割り箸の袋詰め等。(株) マスキ 作業提供。
さをり織り班	7人	さをり作業棟。さをり糸（一部播州糸、帆布糸）を利用して反物織り。製品化は、さをり製品化ボランティア「さをりの会」（保護者、隔週実施）や職員による。
軽作業班	10人	軽作業棟。アース製菓商品の分別、リサイクル作業。(有) ハタリサイクルファクトリー作業提供。
プラグ班	12人	さをり作業棟で開始。電気部品組み立て。(コンタクト ロックレバー 端子台 受け金ホルダー など) (有) 米田製作所作業提供。2013年6月～

(2) 施設外作業・3月末現在（3作業種12人）

マスキ班	4人	(株) マスキの工場の一室を借り、割り箸袋詰め等の作業。徒歩または公用車で職員1人引率。夏場は暑さ対策の為、あかりの家内療育室での作業を実施。
旭班	6人	(株) 旭運送プロジェクト事業部内にて、ライン作業の下準備等の作業を行う。弁当はあかりの家より職員配達していたが、7月より外注弁当を利用。2016年11月～
WH高砂	2人	WH利用者として、クリーニング作業に従事 1人がバス自力通所（就労継続B型）、1人が週3回グループホームより通所（生活介護）

2 作業班強化

(1) 作業班整備

②旭班

一昨年度11月より旭班として立ち上げ。(株) 旭運送プロジェクト事業部内にて、ライン作業の下準備の作業を行っている。室内作業による作業環境の改善、作業内容としても箱折り、のし折り、ダイレクトメールの宛名はり、サンプル商品の袋詰めなど多様な作業内容を行っている中、一般企業との連携という意識と強く持ち、ミスなく作業に取り組めるように環境整備や、作業工程の見直しなどを随時行いながら取り組んでいる。

2019年12月より、職員数不足の関係で中止している。

(2) 生産、報酬、消費サイクルの展開

工賃を消費サイクル（労働→報酬→消費）に乗せるための活動。形態は、作業班毎に工夫。（班毎に、あるいは個別に、コーヒーのマグネットをトークン、出来高制、特別ボーナスなど）

(3) 作業班編成（利用者編成）

利用者の高齢化および体調面への配慮、また作業ノルマや作業種別に応じて作業メンバーをその都度変更。体調面への配慮としては、利用者個別判断が必要であり、暑さ、寒さ、アレルギーなどへの配慮を考えつつも、より利用者が意欲的に活動できる作業提供を考え実施している。

※ 日中活動として48名の利用者が作業を行っている。加えて短期入所、日中一時支援の利用者を加えると50名以上の利用者が活動する状況であり、現状の環境下では各作業場が飽和状態である。

3 福祉バザー、作業製品展示・販売等（昨年度）

4/6	スプリングフェスタ鹿島川 2019	鹿島川	2回目の参加。
-----	----------------------	-----	---------



5/19	まほろばカーニバル	三木光司園	利用者と、さをり織り商品販売。
11/10	第28回みんなの社協フェア	高砂文化会館	さをり織り商品の販売。利用者と参加。
12/7.8	第27回 あかりの家 ナイスハートバザール	アスパ高砂	さをり織り商品の販売。利用者の実演とお客さんの体験コーナー設置。パネルによるあかりの家紹介。
2/16	公民館まつり	北浜公民館	昨年度中央公民館長の誘いで3公民館で初参加。今年度は利用者と一緒に販売のみでの参加。

4 さをり織り委託販売 全て終了

5 職場見学等 福祉バザーなどに参加。ナイスハートバザールでは実演もする。

6 作業収入と工賃支給 (2020年2月末)

作業収入；計1,279,950円…内、工賃支給；計1,076,160円、軍手、工具等の直接経費223,383円  
作業工賃基準・・・1人 21,600円/年支給。

但し、外勤の旭班は23,200円 プラグ作業延長組33,600円/年(作業時間6時間)

※作業工賃基準→1,800円/月 旭班2,000円/月

プラグ作業延1H長組 2,600円/月 2H長組 2,800円/月

#### IV 健康管理

1 入通院の状況

科名	通院		入院	
	延人数	延日数	件数	延日数
内科	95	174	1	6
外科	11	12	2	35
整形外科	92	107	1	7
歯科	529	608	0	0
眼科	14	16	0	0
皮膚科	59	68	0	0
耳鼻科	33	43	0	0
精神科	72	100	0	0
婦人科	9	11	0	0
肛門科	24	24	0	0
その他	30	32	0	0
計	968	1195	4	48

通院については、月ごとの集計を単純加算。従って、月をまたいだ通院は二重カウントの形になり「延人数」として表記。

入院は、把握可能なため二重カウントはなく、「件数」として表記。

<精神科通院>は、幼少期からの主治医に保護者によって通院することが原則(嘱託医の方針)。保護者の高齢化により園から通院することが、多くなってきた

2 常用服薬者

		男	女	計
精神科薬	てんかん	17	3	20
	安定剤・眠剤等	17	6	23
内科系薬(整腸・肝臓・貧血・便秘等)		23	9	32
皮膚科系薬(水虫・湿疹等)		20	4	24
整形外科系薬(Ca剤・骨粗しょう症等)		4	1	5
眼科系薬(アレルギー)		10	1	11
延べ総計(2重カウントあり)		91	24	115

内科系では、27人が便秘薬を服用。

3 健康診断・身体測定等

月	実施内容	月	実施内容
4	身体測定、歯科(歯石除去、歯磨き指導)	10	身体測定、歯科(歯石除去、歯磨き指導)
5	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き指導)	11	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き指導)

6	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	12	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）
7	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導） 健康診断（職員）	1	身体測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導） 健康診断（利用者と変則勤務職員）
8	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	2	体重測定、歯（歯石除去、歯磨き指導）
9	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	3	新型コロナウイルスの流行のため中止

健康診断；利用者は1月17日にあかりの家にて実施（加古川総合保健センター）  
検診科目（身長、体重、腹囲、血圧、尿、胸部レントゲン、採血、心電図、内診）

#### 4 ランニング

月～金、朝の引継ぎ後（作業前）、9時45分頃から10時過ぎ頃まで、準備体操、ランニング、お茶飲み実施。（マスク班を除く外作業の利用者は不参加）。自立グループ用のコースも継続。  
ランニングが負担になる人は、運動場をウォーキング。夏季は、気温が高温になっている為、ランニングは中止、体操のみ実施。11月より利用者の転倒リスクを考慮し、ランニングコースを変更。坂道を下った先からスタートする形に変更している。

#### 5 ウォーキング班・ダイエット班(1F企画日課)

班活動としては休止。ただ、随時ウォーキングマシンを利用したり、裏山のぼりは継続している。

#### 6 整体（健康・医療の方向から）

毎週木曜日、居室にて13：30から1名10分～15分程度、腰痛の人や筋緊張の高い人などを中心に6人が、永田雄三先生（柔道整復師）にマッサージをしてもらっている。（Ⅵ1の（5）参照）

#### 7 その他

11/14 インフルエンザ予防接種。保護者の希望をとり、2人を除いて全員が接種、罹患者0人。今年度も、ノロウイルスに感染することはなかった。

## Ⅴ 支援部・調理部からの年度総括

### <1Fフロア>

#### 1. 利用者

- ・入所者20名、通所3名の合計23名の利用者所属でスタートした。3月9日にUさんが入所し、入所者21名、通所者3名になった。
- ・骨粗鬆症、嚥下や咀嚼、高齢化への、介護的な支援が徐々に必要となってきている。（継続課題）
- ・加納さんが10月より、日中活動の場として「ゆのみ」に月・水と通うようになった。
- ・保護者が高齢や病気等で帰省が出来ない利用者が増えてきている。

#### 2. 職員

(1) 新任を4名迎え、女性13名、男性3名の16名でスタートしたが、男性が1名8月より2Fに移動となったため、15名で運営した。（プラスパート職員2名）

#### 3. 主な活動内容

##### 余暇活動

昨年度と同様に取り組んでいるが、衰退してきている。

中期は忘年会に向けてやっこさんを皆で折り、それでエッフェル塔の作品を作った。

#### 4. 総括と来年度に向けた課題

取り組む力、展開する力の弱さに、今年度は取り組もうとしたが、上手く展開できず前期でとん挫してしまった。中期から始まった強度事業では、この力の弱さが次々出てくることになった。新任だけの問題ではなくなっている。  
(1Fフロア長 内田 多美)

### <2Fフロア>

#### 1. 利用者関係(次年度に向けて)

##### (1) 今年度の課題と現在進行形の取り組み等

- ・Aさん 2年の有期限有目的での通所利用。それを、4月から半年、10月から半年継続し、3月末で終了。



今後の方向、加古川期間センターを含め調整中。

- ・Bさん 行事前後、月またぎ等に他害や無断外出がある利用者。投薬調整後安定化
- ・Cさん 歯科検診・ランニング・ショートステイ利用等の課題。新規通所利用者(H29年9月～継続中)
- ・Dさん 投薬調整 一定レベルの状態安定継続の為一旦終了(帰省後の大声・パニックの軽減)
- ・Eさん 県外の強度行動障害のある利用者の定期的な受け入れ 11月で終了
- ・Fさん 胆嚢炎の為入院・手術(9月18日)
- ・Gさん 強度事業対象者 12月末から3月まで受け入れ

引き続き昨年度からの課題・取り組みが継続中である。一昨年度からの新規利用者の方それぞれに課題がある。利用者担当職員を中心にしつつ、フロア全体で取り組んでいく必要性あり。Aさんは他事業所への移行を前提に話を進めているが、受け入れ資源がなく難しい状況である。Dさんは近年2Fフロアで対応困難な利用者であったが、担当者を中心に、家族との調整・投薬調整を行い、安定している。Eさんは強度事業との兼ね合いもあり終了している。Gさんはチームを中心に受け入れ、フロアで支援を行った。

## 2. 2019年度2Fフロアを振り返って

### (1)フロアの動き

今年度は「留まらない 動く」「虐待問題にどう向き合うか」「職員の育ち」をテーマとしていた

2Fが苦手である余暇の充実を進めるため、G・Wにグループごとで外出を企画し、休日はお菓子作りなどを行った。中期以降は支援員の怪我での離脱なども重なり(中期1Fから1名男性異動)、予定していた余暇を行う余裕がなかった。

一方で療育研修や強度の事業を受けることによって、支援の質や療育的な力を養う、また自分たちの療育スタイルを改めて客観的に捉える良い経験になったと思われる。

### (2)職員の育ち

それぞれの力量は上がってきており、また各自の個性を生かした支援も芽生えてきている。一方で新任から中堅が一定以上に伸びにくい、限られたケースしか見られないなどの傾向も強くなってきている。客観的また幅のある捉え方や考え方が苦手、文章化・組み立てが苦手、職員間のコミュニケーション不足(苦手)なことなど要因として考えられる。“適材適所”という枠に収まらない部分は今後が課題である。新任が続かない事も含め、“職員育成”も大きな課題として残してしまっている。

## 3. 総括と来年度に向けての課題

フロア長として全うできていないことが多く課題が多く残り申し訳なかった。支援力低下の中、職員の育ちが必須である。また職員数も少ない状況で力量も追い付かないため、仕事が難しい・大変といったものが前面に出てきた印象もある。その中で、来年度はどう新任を育てていくのか、職員のモチベーションをどう維持していくのか、それぞれの苦手な面をどういった形でフォローしていきける形やシステムを作っていくのかが大きな課題とを感じる。

また引き続き強度事業を受ける中で、各ケースにも力をどう注いでいくか、各ケース担当にどう動いてもらうか両立していくことも課題としてある。(2Fフロア長 山口 秀人)

## <医務室>

### 1 健康診断(年1回)

再検が必要な利用者には協力医院である井野病院で、血液検査やCT検査、心電図等を受け、結果は必ず保護者に説明している。5人が肝機能障害のため精密検査を受けた。結果はてんかんの薬の影響によるもの。

### 2 日々の健康観察

丁寧な健康観察は、利用者の体の変化に早く気づき、回復を早める。また、園内感染も最小限に防ぐ。

### 3 インフルエンザや感染症予防

2名を除いてインフルエンザ予防接種を46人が受けた。高砂市周辺のインフルエンザ情報を参考に、手洗いを徹底し、うがいのできる人にはうがいを実施した。また今年度は、毎日検温を実施し、早期発見に努めたため感染しなかった。また、新型コロナウイルスの予防にも全職員で取り組んでいる。

感染症発生時のマニュアルを作成し消毒等を徹底した成果があったのか、ノロウイルスの嘔吐、下痢の症状も診ることもなかった。



#### 4 歯科検診

16年度から毎月、利用者全員にブラッシング指導と歯石の除去をしてもらうことにより歯茎からの出血もなくなり健康な歯茎になってきている。園でも朝、昼、夕の食後には一人ひとり丁寧に歯磨きをして、歯間ブラシの必要な人には昼食後に実施している。

#### 5 痔、腰痛対策

痔や腰痛の人が増え今年の冬は、これ以上悪化させないように、全職員で取り組んだ。

#### 6 骨密度測定実施

4月から8月にかけて骨折する利用者が増え、原因が骨粗鬆症によるものだった。

利用者全員に骨密度測定を実施した。結果は5名が治療が必要で注射や薬を飲むことになった。

7名は今後栄養や運動に気を付け経過観察が必要。

(看護師 藤田、川西)

### <調理部>

I 平成 31 年度施設目標 「利用者個々の健康維持増進に配慮した安心で安全な給食提供」

#### II 実施内容

##### 1 年間実施食数

	利用者	ショート	友愛	職員	総食数
全月計	38,664	4,899	2,213	8,715	54,491
月平均	3,222	408	184	726	4,540

##### 2 栄養ケアマネジメント

対象者	実施期間	モニタリング実施
利用者 41名	通年	5月、8月、11月、2月
低リスク 40名	中リスク 1名	31年度計画変更者 9名

##### 3 衛生

①東洋産業害虫駆除毎月1回、 ②消毒年3回、検便毎月1回

##### 4 防災

(1) 自主点検 終業時毎日実施

(2) 災害用食材 (非常食・飲料水・備品) 3日分を外倉庫に備蓄

##### 5 その他

嗜好調査 12月実施 価格調査 2月実施

#### III 業務取り組み内容

- |                       |               |
|-----------------------|---------------|
| ①行事食 (あかり祭り、忘年会、餅つき会) | ⑤栄養ケアマネジメント   |
| ②季節メニュー (秋祭り、節分、ひな祭り) | ⑥喫食調査 (1月～毎食) |
| ③手作りおやつ毎水、日曜日提供       | ⑦厨房会議月1回      |
| ④帰省日朝食パン選択メニュー        |               |

#### IV 総括、今後の課題

・新人の管理栄養士を迎えて管理栄養士2名、調理員3名の5人体制でスタートし、新人教育では前期に調理現場、中期は栄養士業務の献立作成・発注・栄養管理等、後期は栄養ケアマネジメントと順調に進み基本的な業務が出来るようになり即戦力として成長している。

他の職員も経験を積みながらレベルアップし、全体のチームワークも良かったと思える。

・給食提供については高齢化が進み、年々個別対応が増えてきている。

支援部・医務・管理栄養士、又調理現場との連携で情報、状態を把握し食べる大きさ、軟菜食もソフト食に切り替えるのではなく圧力鍋で工夫するなど利用者さんの食べる力に合わせ健康維持に努めている。

・今年度は管理栄養士2名で業務が分担でき他部署との連携も取れ、人不足の時期は栄養士に負担をかけていたが栄養士業務、調理と時間配分を明確にし効率よく取り組むことができた。

・年度末にはコロナウイルス感染症の為帰省が中止となり、お盆、お正月等は保護者さんの高齢化など利用者さんの帰省が出来なくなってきているので勤務体制の見直しが必要である。

- ・次年度から人員2名の入れ替わりでほぼ経験年数の浅い職員になるので人材教育、勤務体制の見直し等、基礎からの立ち上げを職員一同で取り組んでいきます。(調理部 主任 内藤貴美)

## VI 職員研修

### 1 支援員研修

(1) 第26回あかりの家事例研究会(2/9(日)10時～15時 於あかりの家地域交流ホーム)

① 講演:テーマ「自閉症のある人への総合的アプローチの検討 ～見えないことをことばにする意味～」  
講師 ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科准教授 青山新吾先生

② 新規採用キーワード発表

助言者 ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科准教授 青山新吾先生  
発表者 新規採用キーワード作成者

③ 事例発表 兵庫県強度行動障害地域生活支援事業の取り組み経過(1F 2F)

発表者 あかりの家支援員(主に資料作成担当)

助言者 ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科准教授 青山新吾先生

参加者 あかりの家職員、採用内定支援員、外部参加者6名(青山先生教え子含む) 計約40人

研究会用冊子の発行(70部)

事後研修として、あくまでも自己研修の位置づけで事例研究会事後レポート作成。提出者分のレポートについては青山先生へ送付した。

④外部参加者

WH(2)、青山先生関係(岡山県特別支援学校 ;2)、真砂園施設長天野園長、かくたつはりま(守本氏)

※次年度以降もあかりの家へのSVを継続的に行っていただけることになった。

(2) 学習会・相談日(嘱託医平井先生による。週末帰宅の土曜日午後3時間の支援員研修)

①	4/20(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
②	5/18(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
③	6/22(土)	平井 Dr.	ケース会議(相浦さんの現状整理と今後の支援についてケース会議)
④	7/20(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑤	8/24(土)	平井 Dr.	心身の衰えに対する支援を考える
⑥	9/14(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑦	10/5(土)	平井 Dr.	ケース会議(利用者のフロア異動を想定した情報や視点の整理等)
⑧	11/17(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑨	12/14(土)	平井 Dr.	ケース会議(強度事業受け入れケースについてフロア別で実施)
⑩	1/25(土)	平井 Dr.	新職員4名による利用者との関わりを通じた不安や成果の発表
⑪	2/9(土)	平井 Dr.	*平井 Dr の都合にて療育相談中止
⑫	3/14(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談

(3) かくたつ療育研修(2000年10月開始)

スーパーバイザー(有)かくたつグループ代表取締役 片倉厚子先生

第1回 6/30 三気の家 田之上施設長とSTの2人参加

19年度テーマ

1 階「各職員が利用者に対しての支援を具体的に出し、何を取り組み、その取り組んだ結果に伴いどう考えよう支援していくか」

2 階ケース小川正志さん「停滞してしまっている支援を前進させる為に、どうすればよいか」

事前に資料を作成し送付。当日、現地研修およびケース会議を行い、日常の支援に活かすポイントやエッセンスを学ぶ。研修終了後、利用者把握で参加できなかった支援員に、参加支援員が説明。

研修終了後、各支援員は「研修を終えて(①療育ポイントと感じたこと②質問等)」のレポートを提出。後日、片倉厚子先生から質問等に対するコメントが送り返される。

第2回 3月1日に予定されていた研修会は、コロナウイルス蔓延の兆しの為中止。なお、事前に資料を作成していた分については片倉厚子先生に送付し、後日コメントを頂く。



(4) トモニ療育研修 (2010年11月開始)

10年11月、トモニ療育センター(愛媛県)河島淳子先生・高橋知恵子先生を、講師招聘内部研修としてお招きしたのをきっかけに、療育研修として継続している。

<'19年度のテーマ>

- ①「支援者の療育思想のチェンジ。とりわけ一方向的関係からの脱皮」  
(「第一段階の教育」をおおむね突破したあかりの家のここ何年かの大きなテーマである)
- ②「チームとしての力量をあげる」  
(昨年度、チームの職員の引き出しの無さを痛感したので、チーム個人の力量をあげていく)
- ③「今ある流れに新人を巻き込みつつ、活動を継続維持していく」

<内容>

3月12日に予定していた研修会が、コロナウイルスの関係で見送る。

学習活動で活動している、Oさん、Kさん、Iさんを取り挙げて、各々躓いている課題や、出来てきた事等を整理し、先生方に見ていただく機会にする予定であった。  
資料を先生方にメールにて送付とした。

(5) 整体 (研修の方向から)

<経過> 2007,2008年度の講師招聘研修に来ていただいた永田雄三先生(柔道整復師)の往診(毎週木曜日午後)を、職員研修として位置づけ。2017年度には、事例研究会でも整体を取り挙げ、支援部全体に整体の知識を学ぶ機会があった。利用者が生活しやすいようになるための身体の動かし方や日常に取り入れられる働きかけのノウハウや、そのヒントを得る。そして、それを各担当者や各フロアにつなげ、実践していく。利用者との関わり方を広げる、関わり方の知識をつけるために、若手職員(1~3年目)を中心に学ぶようにしている。主に担当ケースを取り上げて診てもらいつつ、学んだことを現場でも活かせるように係から話をしている。

<今年度> 急患などの都合で来られない日が多くなっていたため先生の方から日程の変更を提案してくださった。こちらとの兼ね合いもあり、隔週で火曜の13時から来てくださっていた。しかし火曜の午後に他で体操教室を依頼されたとのことで、再び毎週木曜の13:30~になった。  
今年度初めて院長先生が来られた。それをきっかけに診察後にメディカルシートをメールで送ってくださるようになった。

(6) 中堅職員研修 (休止)

(7) 課題検討委員会 (未実施)

(8) 施設見学、現任訓練等

12月	三気の里 かくたつ合同研修会参加・見学(2日)	熊本県	内田、松島
-----	-------------------------	-----	-------

(9) 発達障害支援スーパーバイザー養成研修受講  
なし

(10) 出張研修 (主なもの)

月	研修内容(実質研修期間)	研修地	参加者
6	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)指導者研修・国研修・2日		埼玉県 坊垣
6	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)指導者研修・国研修・2日		埼玉県 亀山
8	播淡地区施設長職員研修	姫路	前阪
9	全自者協近畿ブロック情報交換会	滋賀県	三原、坊垣、亀山、尾崎
11	社会福祉士実習指導者講習会(2日)	神戸市	後藤
11	第33回全自者協 埼玉大会(2日)	埼玉県	坊垣
9、11	強度行動障害支援者養成研修(基礎:2日)	明石、神戸	後藤、安藤
1、2	強度行動障害支援者養成研修(実践:2日)	神戸	後藤、安藤



12	三気の里とのかくたつ合同研修(2日)	熊本	内田、松島
2	近畿地区知的障害関係施設職員研修	神戸	亀山

## 2 新任職員研修（支援員）

### (1) 出張研修

6	NHKハートフォーラム講演会(自己啓発)	尼崎	大江、木谷、塩野、前田
---	----------------------	----	-------------

### (2) 内部研修（新任研修プログラムによる年間研修）

月	研修内容
4	各部署レクチャー実施（事務、医務、調理、防災、各作業班、給食保険衛生部会長レク）地域支援については研修担当から説明程度にとどめた。女性支援員のため、旭班・マスキ班以外はレクチャー3回実施。男性支援員は旭班以外3回レクチャー実施。“基礎体力をつける”のデータを渡した。
5	“基礎体力をつける”のレポートを提出。勤務時間内に青山先生のDVD鑑賞。5月末に青山先生のDVDを見てのレポートを提出。
6～3	保護者通信「あかりっこ」作成（新任支援員で持ちまわり）
8	期末レポート（自分の課題と質問）
6～2	課題レポート
12	学習会実施（各々の担当ケース発表：支援等での悩みなど）期末レポート（自分の課題と質問）
3	新任研修終了レポート（学んだこと、これからの意気込み）
通年	あかりの家に届く施設だよりの回覧。

## 3 保健衛生関係研修（主なもの） なし

## 4 調理員研修（主なもの）

月	研修内容	研修地	参加者
11	管理栄養士・栄養士専門研修会	竜野市	川元
11	東播磨圏域給食施設協議会研修会	明石	内藤
3	東播磨給食施設相互支援体制整備検討会	高砂	内藤

## 5 運営・管理・経営的・事務な研修（主なもの）

月	研修内容	研修地	参加者
5	安全運転管理者等講習会	明石	足立
6	ひょうご家族ネット研修会	神戸	三原
6	社労士会加古川支部研修会(同一労働同一賃金制度)	加古川	藤原
7	全国知的障害者施設長会議(2日)	横浜	三原
9	安全運転管理者講習会	高砂	坊垣
10	障害児通所事業所研修会(請求事務等)	神戸	藤原
11	虐待対応研修特別プログラム	神戸	坊垣
12	法人研修会	姫路	(斎藤)
1	高砂市 福祉避難所開設・運営訓練	高砂	三原、坊垣
1	高砂市福祉法人連絡協議会設立総会	高砂	(斎藤)
2	労働法改正法令等研修会	神戸	藤原
2	退職共済制度事務説明会	神戸	藤原

## 6 自己啓発研修

28件利用、 図書購入3件、『さぼーと』購入補助6人、NHKハートフォーラム研修11人、姫路親子体操教室研修8件

## Ⅶ 地域交流

### 1 ボランティア

- (1) 音楽クラブ指導(永江先生) 月1回 帰省日でない土曜または日曜日
- (2) 華道クラブ指導(松尾先生) 月2回 土曜日午前
- (3) アートクラブ(阿部先生) 月1回 木曜日午後
- (4) あかり喫茶(秋桜会 5人程度) 第3または第4 金曜日 午後、月1回利用者用の喫茶店実施
- (5) さをり織り製品化ボランティア(あかりの家保護者、元あかりの家利用者保護者、ショートステイ利用者保護者)  
 ※餅つき会 高砂を明るくする会、コスモス (今年度から中止;メンバーの老齢化)

### 2 あかりの家利用者行事への地域等からの参加 上記 ボランティア以外、特になし

### 3 地域交流ホームの開放

- (1) 地域障害児者の和太鼓練習(月2回)
- (2) 専門図書貸し出し(特になし)

### 4 後援等(研修会等) なし

### 5 地域行事等への参加等

- 8月 高砂市障がい者自立支援協議会主催 Tシャツデザインコンテスト 入選 正木、宇都宮
- 9/6 神農祭(児童学園招待) 利用者3名と支援員1名参加
- 10/ 26 高砂ユニナビサッカー教室 参加 丸山、大庫
- 11/4 高砂荘文化祭 6名参加

### 6 広報

#### (1) ホームページ

新HP(3代目)13年7月18日にアップ。  
 新HP開設後、カウンター数の追跡が出来ていなかったが、2015年5月18日(月)に内部カウンター設置。  
 2017年2月28日(火)にスマートフォンで見れるようにサイトを変更。  
 また、同時に記事の更新方法をWordプレス形式に変更し、更新作業を簡易化した。  
 職員募集に果たすHPの役割が、ますます重要になっている。  
 2019年7月頃ホームページアクセス数がカウント出来ないことが発覚。業者に依頼。2019年7月よりカウント開始している。

#### (2) 広告 なし

#### (3) 発刊物等

	発行日	発行部数	配布対象
保護者通信「あかりっこ」 No.353～ No.364	毎月	各 100 部程 延 1,000 部程度	保護者、法人役員・評議員、後援会役員、 採用内定者、ボランティア等
「あかりだより」No.29	8/1 (年1回)	600部	法人利用者保護者・職員、後援会員、地域 関係施設・全自者協施設・関係機関等
第26回「あかりの家事例研究会」	2/9	70部	法人あかりの家職員、講師、関係者 他
『井戸を掘った人の恩を忘れな い』—今津房子さん その思想と あかりの家— (編;三原)	3/15	130部	あかりの家職員、あかりの家保護者、自閉 症協会高砂ブロック他
『あかりの家自閉症療育キーワー ド集』 (編;三原)	3月	100部冊子化 (4月に完成)	あかりの家職員等 原則内部配布

#### (4) 掲載記事等(新聞・雑誌・機関紙等)

- ① 『ソーシャル・インクルージョンとインクルーシブ教育』(2019.12 学事出版 高原浩著・青山新吾編集代表)の  
 中の高原・青山対談で、6月開催のNHK ハートフォーラムの、あかりの家発題が取り上げられている。



## (5)取材

9/2 「兵庫大学公式サイトに係る取材」、塩野新任支援員取材

## (6)展示・出展

展示、販売（「P.6 Ⅲ「作業の概況」の「3 福祉バザー」、「4 さりを織り委託販売」参照）

## 7 あかりの家施設見学受入・・・12件31人(内、県外 3件6人)

PTA・保護者		福祉事業所関係		教育・保育関係		行政・議員関係		地域関係者		当事者	
3件	54人	2件	10人	件	人	2件	8人	件	人	件	人

インターンシップ、会社説明会等の就職活動関係者は含まず。

クローバやあいあむなど経由の見学者、短期利用希望者、外来相談関係等の見学者は把握できず  
県外からは、熊本、大阪、和歌山からの3件

## 8 その他 記録的なこと

①9/29 わかば学園50周年記念式典参列(加古川市) 三原

## Ⅳ 地域支援

## 1 障害児等療育支援事業

## (1)兵庫県

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等 支援事業	21	114	自閉症	17	91	重度	17	93
			知的障害	3	21	中度	1	2
			重症心身	0	0	軽度	3	19
			身体障害	0	0	その他		
			その他	1	2			
施設支援指 導事業	10	42	生活介護・就B他	2	5	施設支援 指導事業	10	42
			地域活動支援センター	0	0			
			学校・保育園	8	37			
合計	31	156	合計	31	156	合計	31	156

福祉圏域	人・施設	件	利用理由	件
東播磨	31	156	療育相談	156
その他県内	0	0	療育援助	0

## (2)姫路市

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等支 援事業	36	175	自閉症	36	192	重度	33	188
			知的障害	0	0	中度	2	3
外来療育等支 援事業	17	17	重症心身	0	0	軽度	0	0
			その他	0	0	その他	1	1
施設支援事業	6	31	生活介護・就B他	4	16	施設支援 事業	6	31
			グループホーム	1	1			
			学校・保育園	1	14			
合計	42	223	合計	42	223	合計	42	223

市町	人・施設	件	利用理由	件
姫路市	42	223	療育相談	103
			療育援助	120
			その他	05
合計	42	223	合計	223



2 短期入所（介護給付）63人 延1,608日

利用形態		障害種別		男女・児者		市 町						
形態	日	種別	人	日		人	市町	人	日	市町	人	日
介護給付	1608	自閉	52	1359	男	50	高砂	8	159	神戸	1	30
私的契約	0		82%	84%	女	13	加古川	26	533	尼崎	2	22
		知的	10	245			播磨町	5	198	宍粟	0	0
			15%	15%	児	6	稲美町	1	2	朝来	1	4
		難病	1	4	者	57	明石	0	0	神町	1	2
			1%	0%			姫路	15	277	県外	3	381
計	1608	計	63	1608	計	63				計	63	1608

3 日中一時支援事業（地域生活支援事業）61人、延565日

利用形態	日	種別	人	日	男女、児者	人		人	日
地域生活支援	565	自閉	51	515	男	45	高砂	11	75
			83%	91%	女	16	加古川	29	267
私的契約	0	知的	10	50			明石	0	0
			16%	8%			播磨町	0	0
		その他	0	0	児	17	稲美町	1	5
			0	0%	者	44	姫路	20	218
計	565	計	61	565	計	61	計	61	565

4 被虐待者障害者一時保護支援（高砂市と播磨町・稲美町と契約） 実績なし

5 姫路親子体操教室（兵庫県自閉症協会姫路ブロック事業）

こどもの身体への働きかけを通して、受容と主導のバランスをもった親子のいい関係作りをめざす。  
 三原施設長の高砂親子体操教室のプログラムを準用し、'95.7三原施設長が指導者として開始。  
 '20年3月で649回実施。基本は月2回、土曜日、10時から1時間半程度実施。  
 '19年度は、三原施設長を中心にして、道端、後藤支援員が参加。

'19年度参加者	メンバー；小5から27歳の男子6人、姫路市5人、太子町1名	16回	延56組の親子参加実績
----------	-------------------------------	-----	-------------

6 講師、発表、寄稿等 ※( )は法人内別事業所職員

NHKハートフォーラム「自閉症スペクトラムと強度行動障害」		於；尼崎	6/1	事例発表	尾崎	
				企画・シンポ司会	三原	
近畿地区知的障害関係施設職員研修会分科会（強度行動障害支援）			2・12	発題	坊垣	
かくたつ合同研修会（三気の里（熊本県））			12/1	発題	内田、松島	
強度行動障害地域生活支援事業市町職員等説明会			6/27	説明等	三原、坊垣	
兵庫県	令和元年度強度行動障害支援者養成研修	基礎研修	合同	9/14	講師	三原
			第1・2・3回	10/29, 11/13, 11/19	講師&演習補助	亀山
		実践研修	1/23・24 2/6・7	講師・演習補助	三原、坊垣、亀山（和田）	
兵庫県自閉症協会・神戸市自閉症協会 研修旅行			11/8・9	講師、介助	（長谷川）	
自立センターたるみ 施設内研修（自閉症理解と支援）			7/29、8/19	講師	三原	
行動援護従業者養成研修（NPO法人ぱれっと主催；神戸市）			11・12月（4日）	講師	三原、坊垣、亀山、尾崎、前阪、（齋藤、和田、濱口）	
「初年次演習Ⅱ」（兵庫大学）			10/30	講義	大江	
兵庫大学付属須磨ノ浦高等学校（2年生及び保護者）			1/25	講義	今後	

7 関係団体等への役員や職員派遣等 ※( )は法人内別事業所職員

全日本自閉症支援者協会		理事	'19. 7～	(和田)
兵庫県自閉症協会		役員	98～	三原
姫路ブロック 姫路親子体操教室		指導者派遣	年間、95～	三原、道端、後藤
神戸市自閉症協会		顧問	11. 4～	三原
播淡地区 職員代表者会		スポーツ委員	18. 4～	前阪
播磨町	播磨町障害者福祉施策推進協議会	委員	12.12～	三原
	播磨町地域自立支援協議会推進会議	委員	10. 6～	三原
稲美町	地域自立支援協議会	委員	11. 4～	三原
高砂市	自立支援給付等審査会	審査委員	06. 6～	三原
	地域自立支援協議会	全体会 構成員	08. 2～	三原
		運営会議 委員	10. 6～	三原
		くらし部会 委員	19. 4～	(斎藤)
		こども部会 委員	14. 4～	(福原)
		障害福祉計画進捗評価会議 構成員		三原(濱口)
高砂児童学園運営懇話会	委員	'19. 11～	三原	
高砂市共同募金委員会 募金推進委員		委員	18. 6. 1～	三原
社会福祉法人 トリトン		評議員	16. 3～	坊垣
社会福祉法人 曾根福祉会		評議員	17. 4～	三原
社会福祉法人 常寿会		評議員	17. 4～	藤原

8 主幹開催等 なし

9 ⑨ 強度行動障害地域生活支援事業(県単事業:あかりの家指名委託) 2019年10月～

緊急に支援の必要が認められる在宅の強度行動障害者を、短期から中期間集中支援し、再度地域生活に戻る仕組みを構築するとともに、地域での受け皿ともなる事業所の支援員スキルを向上させ、ひいてはこれら障害者の安定した地域生活を実現させることを目的とした事業

【事業実績】

①対象者の受け入れ

・人数：2人(女性1、男性1)、・延べ日数：188日

②通所施設等の支援者研修受け入れ 2事業所3人・延べ日数:46日

③通所施設等への直接支援 ・延べ日数:20日

④その他 ヘルパー支援、関係事業所や保護者への支援、見学受け入れ

10 実習受入(見学は前章の7参照)

(1)発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入

9月2(月)～6(金) 姫路市内の事業所から一人受け入れ

(2)強度行動障害地域生活支援事業(2件3人、延べ46日)

(3)学生、施設職員(含上記(1)、(2))、学校先生等・・・20件、29人、延203日)

社会福祉実習(社会福祉士受験資格)	1件	2人	延46日
保育実習	4件	8人	延 80日
体験ボランティア実習	0件	0人	延 0日
介護等体験(教職員免許必修実習)	1件	1人	延 5日
現任訓練(特別支援学校先生、事業所支援員など)	2件	2人	延 4日
発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入(上記(1)再掲)	1件	1人	延5日
インターンシップ受け入れ	7件	11人	延11日
加古川市障がい者基幹相談支援センター あかりの家見学・研修	6/24	3人	延3日
	10/28	3人	延3日
強度行動障害地域生活支援事業・事業所職員実務研修(上記(2)再掲)	2件	3人	延46日

7/5 関西福祉大学 社会福祉学部実習打合わせ会 於:関西福祉大学 道端支援員 出席



(4) 児童・生徒

体験実習(特別支援学校)	0件	0人	延 0日
--------------	----	----	------

- 11 福祉避難所・・・高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.2).11)  
1月 高砂市主催研修会に三原、坊垣参加

**Ⅹ 個別支援計画・施設サービス評価・苦情解決**

- 1 個別支援計画 前期と後期の年2回作成。(保護者との懇談を7/6に実施)  
今年度より、期間を1期を3/1～8/31、2期を9/1～2/29と変更した。従来の1期は4/1～であり、新担当に着任後、早々に作成するという流れは廃止し、前年度担当が作成することとした。県の監査の指摘により、対象期間の前に説明、押印いただく形とした。
- 2 施設サービス評価 平成21年2月28日実施 以降なし

- 3 サービス苦情解決(障害者支援施設、短期入所事業)

苦情受付担当者	亀山 隆幸 (サービス管理責任者)
苦情解決責任者	三原 憲二(あかりの家施設長)
第三者委員	富士原一成(前 高砂市社協理事長) 高尾 剛一(元高砂市福祉部次長、あかりの家前監事)

期末休み明けに「休み中の生活の様子」を聞き取る。その際「あかりの家への要望等」の項目を設定し、毎期末休み明けに要望を聞き取っている。

今年度、7件「あかりの家への要望等」を取り上げる。

<受付事例>

支援に関する内容(療育支援に関すること・衣類管理に関すること・長期休みの短縮希望など)

外部からは、「強度行動障害地域生活支援事業」実施に伴うトラブル。(次章の「虐待」参照)

**Ⅹ リスクマネジメント・虐待・防災・安全・衛生**

- 1 リスクマネジメント

怪我、投薬ミス、物品破損、車キズ等については、「事故等報告書」提出を義務付け。

19年度は54件(18年度は55件、17年度は55件、16年度は56件、15年度は、57件、14年度は62件)。

<怪我> 19件 (前年比：-3件)

骨折2件 (+1件)、肋骨にヒビ1件。打ち身、腫れ、切り傷、すり傷等が16件 (+1件)。

ランニング・作業棟移動での転倒は1件 (+1件、2017年度：4件)。

<破損(利用者対応を伴う)> 10件 (+5件)

ガラス破損2件 (±0件)、その他、眼鏡、トイレフタ、居室蛍光灯、換気扇、椅子等。

<投薬ミス> 全17件 (+5件)

<その他> 16件

公用車に関する事故3件 (-1件：バンパー破損等)、金銭関係(小遣い帳清算ミスほか)。

無断外出は0件 (-2件)、作業棟や公用車からの誘導忘れによる利用者放置0件 (-2件) と減少。

- 2 虐待

(1)2020年1月 「あかりの家療育倫理規定—あかりの家虐待防止5本の柱—Ver. 3—②」を作成

3月 「あかりの家療育倫理規定—あかりの家虐待防止5本の柱—Ver. 3—③」を作成

(2)各期末全体会で、虐待防止委から問題提起と検討会議実施

ペアチェック2回実施

「身体拘束記録」での、記録と報告

「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」尿カテーテル使用者1人に3か月ごと作成、保護者に提示説明

(3) 昨年度4月3日 高砂市に、あかりの家での虐待通報が入る。

内容は、発達障害支援SV養成研修・実務研修受け入れ時の、研修生からの“告発レポート”(2018年3月13日、松上全自者協会会長から東京で受け取る)に端を発し、(一般社団)日本自閉症協会が、県に通報し、高砂市に転

送されたもの。

日本自閉症協会からの通報に関して、強い疑義を持ち何度もやりとりをするが、自閉症協会からは、問題はない旨の回答が繰り返される。

兵庫県自閉症協会長と神戸市自閉症協会からも日本自閉症協会宛に、疑義の手紙や文書を送っていただくが、日本自閉症協会の姿勢は変わらず。

日本自閉症協会からの3月5日付の回答をもって、抗議行動は断念する。(別に綴りあり。)

- (4)「強度行動障害地域生活支援事業」実施に際して、準マンツーマンのショート利用者の利用をお断りするが、そのことで、Sさんの保護者から強いクレームが来る。それが感情的な問題に発展し、12月28日、Sさんに背中に傷を負わせたとの訴えから、警察が事情聴取のため来所。聴取後の連絡等は一切なし。

### 3 防災

#### (1)防災訓練

##### ①避難訓練

11月4日 夜間想定(避難・通報)

3月3日 昼想定(避難・通報)

※今年度は高砂消防本部を要請しての避難訓練は実施なし

##### ②新任レクチャー(4月に実施)

・火災時の対応・避難訓練の説明・消火器、散水栓の取り扱い方などを説明

#### (2)消防自主点検 月2回程度実施

#### (3)消防計画変更なし

#### (4)防災マニュアル作成

#### (5)業者委託点検等

a 消防用設備等(スプリンクラー設備、非常動力設備、自動火災報知設備、消防機関に通報する火災報知設備、誘導灯及び誘導標識、消火器具) 年2回(4、12月)点検  
内、10月分を「消防用設備等(特殊消防用設備等)点検結果報告書」として高砂市消防本部へ届出

b 特殊建築物等定期調査 → 無

c 水洗機、ガス式乾燥機点検 年1回(2月)点検

d 自家用電気工作物(高圧受電設備)保安全管理 2019年10月1日から毎月1回点検

#### (6)電気設備の安全調査(加古川地区電気安全調査センター) 1/14 「良好」

#### (7)LPガス設備保安点検((有)保安センター東播) → 無

### 4 交通安全

#### (1)車両管理:担当者により点検

(2)無事故・無違反運動「チャレンジ100」(10/1~1/8)(県全運転管理者部会等共催)に10年連続10回目の参加。3チーム(1チーム10人、計30人参加)編成し、2チームが無事故・無違反を達成し、表彰を受ける。

(1チーム時代6回中5年無事故無違反、今回含めて延20チーム中15チーム無事故無違反達成)

#### (3)安全運転管理者等講習会 5/17 足立事務員(補)出席

安全運転管理者等講習会 9/10 坊垣副施設長出席

### 4 衛生

#### (1)貯水槽清掃 8月3日業者にて実施

#### (2)合併処理浄化槽関係

①合併処理浄化槽業者点検 年24回(毎月2回)実施

②(社)兵庫県水質保全センター検査 8/19 「適正」

## XI 総務関係

### 1 職員の採用・退職(あかりの家)

(1)正規職員	採用10人	4/1支援員(男1女4)	栄養士兼調理員(女1)	6/1看護師(女1)
		10/1事務員(女1)	2/1支援員(男1)	3/1調理員(女1)
	退職7人	4/支援員(男1)		
		3/31施設長(男1)	支援員(女3、男1)	栄養士兼調理員(女1)



- (2)嘱託職員 採用1人 3/16 支援員(男1)  
退職2人 2/29 支援員(男1)、3/31 調理員(女1)
- (3)パート職員 採用 無、退職 無

## 2 求人活動(法人)

### (1) 2020年4月新卒支援員等求人

#### ①インターネット求人サイト「マイナビ」を活用

##### ◇イベント

マイナビ就職セミナー (2018年5/13神戸、2019年2/15姫路、3/8姫路、3/11神戸)

インターンシップフェア (2018年6/24神戸、12/15神戸、12/26姫路)

##### ◇インターンシップ: 2018年8月、9月、2019年1月、2月

2018年8/1(参加者5人)、8/8(参加者5人)、8/22(参加者4人)、9/5(参加者4人)、  
9/12(参加者1人)、2019年1/30(参加者2人)、2/6(参加者2人)、2/13(参加者4人)、

##### ◇法人説明会&見学会(あかりの家交流ホーム)

第1回3/4(参加者1名)、第2回3/18(参加者3人)、第3回3/25(参加者3人)、

第4回4/8(参加者3名)、第5回4/12(参加者4人)、第6回4/15(参加者1人)、

第7回4/19(参加者2人)、第8回6/10(参加者1人)

※ 学校紹介その他見学 2020年1/14(参加者1人)

##### ◇採用試験

3/4(受験者2人→採用1人、辞退1人)、3/25(受験者4人→採用2人、辞退0人)、

4/19(受験者2人→採用2人、辞退1人)、5/23(受験者1人→採用1人、辞退0人)、

6/14(受験者1人→採用0人、辞退0人)、2020年2/13(受験者1人→採用1人、辞退0人)

#### ② 8/20 内定者の集い実施

### (2) 2021年4月新卒支援員等求人

#### ①インターネット求人サイト「マイナビ」を活用

##### ◇イベント

インターンシップフェア (6/22、10/14、12/1神戸)

マイナビ就職セミナー (コロナウイルス拡大防止のため中止)

##### ◇インターンシップ

7/30(参加者1人)、8/8(参加者2人)、9/24(参加者2人)、1/10(参加者2人)、

1/17(参加者2人)、2/10(参加者1人)、2/17(参加者1人)

##### ◇法人説明会及び採用試験(コロナウイルス拡大防止のため3月は中止。4月以降未定)

#### ②その他

11/18 関西福祉大学社会福祉学部「学内福祉合同説明会」参加(三原、坊垣、松島)

## 3 職員構成(あかりの家)('20. 3. 31現在)

		施設長	副施設長	支援員	看護師	事務員	栄養士	調理員	計
常勤職員	男	1	1	15					17
	女			14	2	2	2	4	24
現員	計	1	1	29	2	2	2	4	41
非常勤				4(4)		1(1)			5(5)
計		1	1	33(4)	2	3(1)	2	4	46(5)

## 4 職員年齢構成('20. 3. 31現在)

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	総計
常勤	男	3	6	6		1	1	17	41
	女	13	4	3	3	1		24	
非常勤			2(2)	1(1)	3(3)			6(6)	6(6)
総計		16	12(2)	10	6(3)	2	1	47(6)	47(6)

※常勤職員平均年齢39.3歳、常勤生活支援員平均年齢33.9歳、常勤職員平均勤続年数8.9年

## 5 資格取得の状況(常勤職員:延人員)

サービス管理責任者(7)、社会福祉士(7)、精神保健福祉士(2)、介護福祉士(1)、介護支援専門員(1)、

知的障害援助専門員(1)、保育士(8)、教員(5)、幼稚園(3)、相談支援援助実習指導者(1)、臨床心理士(1)、看護師(1)、准看護師(1)、管理栄養士(2)、栄養士(2)、調理師(2)、防火管理者(5)、社会保険労務士(1)

## 6 表彰(法人)

### (1) 法人あかりの家表彰(2011年4月「表彰規程」施行)

20年勤続	和田康宏
10年勤続	前阪敬介

### (2) 外部機関・団体からの表彰

秋の叙勲 (瑞宝双光章)	三原憲二	
県全運転管理者部会等共催	無事故・無違反運動 「チャレンジ100」達成表彰	3チーム・30人参加、 2チーム達成

## 7 衛生委員会 (2016.9.1発足)

委員会：毎月1回開催 (年12回実施)

委員：統括管理者 (三原) 産業医 (井野) 衛生管理者 (藤原) 看護師 (藤田、川西)

改善委員会担当支援員

主な議題：長時間労働の実態報告、職員の健康診断、感染症対策、作業環境について等

## 8 購入、工事、修繕、寄付物品等 (10万円以上)

4月	看板(玄関設置) (株)木炭社	10.6万円
9月	消防設備改修工事 (豊設備商会)	17.2万円
10月	高圧受電設備(キュービクル)設置工事 (河田建設株)	642.6万円
12月	スプリンクラー修繕工事 (豊設備商会)	67.1万円
2月	高砂市北浜町北脇中山田519番合筆 (梅谷事務所)	5.2万円
3月	フェンス等外構工事 (河田建設株)	45.0万円
3月	西作業棟天井設置工事 (河田建設株)	39.9万円
3月	1F, 2Fリビング、サロン出入口扉取り換え (3枚)	5.7万円

## 年度特記事項

- 1 強度行動障害地域生活支援事業(県単(新)事業)県から委託を受け、10月より実施
- 2 「行動援護従業者養成研修」…法人全体(法人内7人+天野真砂園施設長)で講師陣構成  
①10・11月 NPO法人ぱれっと主催(神戸市)4日間(3年目)
- 3 労働紛争…平成29年7月14日付け訴状(未払割増賃金等請求事件;未払賃金とパワハラ)  
2月20日神戸地裁にて和解成立
- 4 SV研修者虐待告発レポートと日本自閉症協会からの通報問題に関する強い疑義についての日本自閉症協会とのやりとり。「虐待」の項参照
- 5 裏山開発に関して、昨年度に引き続き、6/20、県と市に対し解決依頼のための調整会議を持つ
- 6 あかりの家外周西側のフェンスと門扉取り換え(閉鎖感を軽くするため)3月
- 7 車いす通路、運動場に設置(3月)
- 8 高圧受電設備(キュービクル)設置(10月)



# 令和元年度 児童発達支援室 事業報告

令和2年3月30日

福原正将

今年度も、これまで通り、利用契約している児童にとって必要な支援を作り出しながら事業を行ってきた。また、近隣の発達の気になるお子さんにとって必要な人的資源、受け入れ関係機関の専門性の向上についても、意識しながら活動してきた。

## 1. 事業の状況

児童発達支援室の行う業務は、

i) 児童福祉法に定められる児童通所支援事業

ア) 児童発達支援事業      イ) 放課後等デイサービス事業      ウ) 保育所等訪問支援事業

ii) 福祉サービスとしては定められていない児童に関する相談、療育支援

がある。

### 《通所支援事業》

#### ① 契約状況(令和2年3月30日現在)

事業名	児童発達支援	放課後等デイ	保育所等訪問	合計
人数	18名	30名	6名	49名

#### ② 事業実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
児童発達支援	51	57	60	69	51	62	73	70	66	64	62	19
放課後等デイ	102	104	106	123	103	105	107	111	114	97	102	126
保育所等訪問	8	8	8	8	2	8	8	8	7	6	6	0

### 《福祉サービスとしては定められていない児童に関する相談、療育支援》

#### ① 事業所等支援(保育所、学校等からの要請により、助言等を行う) \*サービス担当者会議は除く

定期訪問: 市内のこども園(2か所) \*さいしゅうじこども園 正蓮寺こども園

内容: 発達の気になる児童に関する関わりや捉え方 (24回/年)

訪問依頼: 市内学童(1か所)、市内小学校(2か所)、市内中学校(1か所)

市外こども園(1か所)、市外小学校(3か所)、市外中学校(1か所)、特別支援学校(1か所)

内容: 児童に関する対応や捉え方の助言 (20回/年)

#### ② 講演、講義講師

場所: 兵庫大学

内容: 福祉現場実習前講義 『施設の立場から実習前に知っておいてほしいこと』

## 2. まとめとして(展開のポイントとして)

・開所当初からの利用児童の卒業。社会に繋げていくことを目標にしてきた支援がどう繋がっていくのかが、近いうちに見えてくる。⇒方向性や療育の質の見直ししやすいタイミングになる。

・「あかりの家で見てほしい」、「あかりの家しかない」と依頼された強度行動障害を示す児童の受け入れ。

⇒環境的に難しい状況が起こっている。

・新たな支援ツール“メールによる支援”の確立

⇒公的には支援としては認められていない”メールによる支援“をどう生かしていくか?

2019 (R. 1) 年度

地域支援センター あいあむ 事業報告書

2020. 3. 31 現在

‘2019 (R. 1) 年度 地域支援センター あいあむ 実施事業

	事業名	事業開始年月日	
1	東播磨臨海地域における相談支援機能強化事業	' 06 (H. 18). 5. 22	2市2町委託事業
2	障害児相談支援事業	' 12 (H. 24). 4. 1	高砂市指定
3	計画相談支援事業	' 12 (H. 24). 4. 1	高砂市指定
4	指定一般相談支援事業所(地域移行・地域定着)	' 13 (H. 25). 4. 1	県指定
5	障害者等相談支援コーディネーター事業	' 07 (H. 19). 10. 1	県委託事業
6	高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業	' 13 (H. 25). 6. 1	高砂市委託事業
7	加古川市障がい者基幹相談支援センター運営にかかわる技術顧問契約	' 17 (H. 29). 9. 1	加古川市社会福祉協議会委託事業
8	高砂市障がい者基幹相談支援センター	' 19 (R. 1). 4. 1	高砂市委託事業

地域支援センターあいあむは、入所施設で培った自閉症療育等の専門性等を“地域に返していく”という方針のもと、ご本人・ご家族が地域で安心して暮らすことが出来るように「相談支援」・「地域づくり・人材育成」の2本柱を中心に、8つの事業を展開し東播磨圏域における地域支援の拠点を目指して活動を行った。

事業の中心である「計画相談」については本格実施から8年が経過し、圏域内における達成率もほぼ100%となっている。一人の相談員が抱える件数とニーズの多様化によるバランスの難しさが浮き彫りになっている一方、新規利用希望者も毎年一定数おられる中で、エリアにおける事業所数と相談員が増えない実情が深刻化している。重ねて夕方や土日しか訪問できない家庭への対応についても継続した課題として、働き方改革の検討が必要である。

また、今年度は新規事業として高砂市から「高砂市障がい者基幹相談支援センター」を受託し市内における相談支援の拠点として相談支援と人材育成について実施を行った。高砂市障がい者自立支援協議会の事務局業務、東播磨臨海地域における相談支援機能強化事業、圏域コーディネーター事業と合わせて東播磨圏域における相談支援、地域づくりの一翼を担っている。

I 実施事業

1 東播磨臨海地域相談支援事業（2市2町相談支援事業）

		加古川市	高砂市	播磨町	稲美町	計
		0件 (0人)	0件 (0人)	18件 (14人)	50件 (18人)	68件 (32人)
相談 形態	訪問	0件	0件	0件	12件	12件
	来所	0件	0件	16件	28件	44件
	同行訪問	0件	0件	0件	0件	0件
	電話	0件	0件	2件	10件	12件
	メール	0件	0件	0件	0件	0件
	ケア会議	0件	0件	0件	0件	0件
	関係機関	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件

- ・ 06年5月22日から、加古川市・高砂・播磨町・稲美町より委託を受け事業開始
- ・ 週2日。市町庁舎内等で2時間窓口相談実施。
- ・ 各6時間で契約。窓口相談時間外の4時間は「施設待機」時間帯とし訪問・外来相談を実施。
- ・ 基幹相談支援センター開設に伴い加古川市は29年9月末で終了。高砂市は31年3月末で終了

2 障害児相談支援事業 ※終了者等も含む

06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始  
 計画作成者 120名 (高砂市79名 加古川市40名 播磨町1名)



3 計画相談支援事業 ※終了者等も含む

06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始

計画作成者 354名

(高砂市189名 加古川市118名 播磨町15名 稲美町17名 神戸市8名 加東市1名  
小野市 1名 豊岡市1名 名古屋市1名 尼崎市2名 大津市1名)

4 指定一般相談支援事業所 (12年4月1日より県の指定により事業開始)

(1) 地域移行支援 実施者 3名 (高砂市2名、加古川市1名)

(2) 地域定着支援 実施者 6名 (加古川市4名、高砂市2名)

5 障害者等相談支援コーディネート事業 (県新規事業としてH19. 10. 1あかりの家に委託)

(1) 市町相談支援事業への後方支援 (困難事例等への対応・助言、情報提供など)

区分	相談・指導等の方法			合計	
	相談支援ケースへの対応等	相談支援体制等の構築・運営	その他		
相談関係	① 定相談支援事業所従事者	57	148	39	244
	② 町職員(障害福祉担当課に限る)	62	14	14	90
	③ 記以外の障害者の相談支援関係者	60	71	13	144
	④ 保健・福祉関係者(市町職員含む)	26	22	15	63
	⑤ 教育関係者(市町職員含む)	18	12	21	51
	⑥ 就労関係者(ハローワーク等行政関係者)	0	0	0	0
	⑦ 企業等	0	0	1	1
	⑧ 障害福祉サービス事業者等	37	19	54	110
	⑨ その他(ケース会議、刑務所職員など)	93	9	45	147
	⑩ 障害者本人	1	0	1	2
	⑪ 障害者の家族等	2	1	8	11
	合計	356	296	211	863

(注) 件数・・・助言・指導の対応回数を記載

(2) 研修会の開催

開催日時・講演会名	開催場所	内容	参加者数
7/19 チーム支援ネット第1回 全体研修会	加古川総合福祉 会館 201~ 203会議室	講演 『相談支援×就労支援』  講師：はぐるま福祉会 岡崎 美穂氏	50名、 相談支援事業所、 教育

(3) 圏域内及び圏域間の相談支援関係機関、療育係機関の連携のための業務

- ① 県関係機関、市町、医療機関、就労機関、特別支援学校、施設、事業所などの連携
- ② 就業・生活支援センター、加古川市立就労支援センターとの連携
- ③ 現存する各種障害者児団体・ネットワーク会議(雇用・地域生活・相談事業 権利擁護)に参加
- ④ 3市2町及び圏域における地域自立支援協議会(準備会含む)への参加(年間76回)
- ⑤ 東播磨相談事業者チーム支援ネットの運営(研修会、連絡会)
- ⑥ 東播磨圏域3市2町自立支援協議会連絡会(1回開催)

6 高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業 (高砂市新規事業として13. 6. 1あかりの家に委託)

(1) 会議活動回数

- ①全体会1回 ②運営会議2回 ③相談支援専門員による地域課題抽出の会1回④高砂コンサルタ1回
- ④こども部会5回 ⑤事業所ワーキング5回 ⑥くらし部会4回 ⑦本人会1回 ⑧ヘルパー事業所  
連絡会4回 ⑨事務局会議11回 研修会2回 計 37回

※各会議における案内文の送付、議題表・名簿作成、資料作成、議事録作成、調整、会議の進行など

(全体会は除く)

- (2) 高砂ユニナビ (啓発活動)
  - 2-1 本人会 1回
  - 2-2 高砂ユニナビサッカー教室 2回
  - 2-3 高砂ユニナビシネマ 2回
  - 2-4 高砂ユニナビアート作品展 1回
  - 2-5 Tシャツデザインコンテスト 1回
- (3) 高砂市福祉マップ 障がい者編 更新作業
- (4) ホームページ管理・更新等
  - ① ホームページチラシ作製
  - ② ホームページ掲載 計 59件  
※参考 ホームページ閲覧数 84,540件/年>
  - ③ SNS掲載 (Instagram、Facebook、LINE@) 各89件

#### 7 加古川市障がい者基幹相談支援センター運営にかかる技術顧問契約

(加古川社協新規事業として17. 9. 1あかりの家に委託)

平成29年10月に開設された加古川市障がい者基幹相談支援センターにおける職員への助言 (SV)、ネットワーク会議への助言・研修講師等を定期的に行う。

- (1) 基幹センター職員対象 相談支援SV 計14回
- (2) 基幹センター職員対象 法人内事業SV (あかりの家、ワークホーム、GH、児童デイ、クローバー) 計10回

#### 8 高砂市障がい者基幹相談支援センター (高砂市新規事業として19. 4. 1あかりの家に委託)

別紙事業報告 参照

## II 職員研修

### 1 職員研修内容 (基幹センター職員は別紙記載)

月	研修内容	研修地	参加者
6	○一般社団法人 兵庫県相談支援ネットワーク平成31年度定期総会	西宮	濱口、
7	○チーム支援ネット研修会『相談支援×就労支援』	加古川市	濱口、石井、松原、藤田、春名 梶原、
	○あかりの家 SIK プロジェクト研修会 (玉木氏)	高砂市	濱口、石井、松原、藤田、春名 梶原、金鹿、
	○東播臨海精神保健協会講演会	加古川市	濱口、藤田
9	○あかりの家 SIK プロジェクト研修会 (前阪氏)	高砂市	濱口、石井、松原、藤田、春名 西野
11	○加古川養護学校研修「親亡き後の支援に備える～後見人制度について～」	加古川市	濱口、藤田、梶原
	○あかりの家 SIK プロジェクト研修会 (楠氏)	高砂市	濱口、石井、松原、春名、梶原
	○東播臨海精神保健協会精神保健支援者研修会	加古川市	濱口、春名、藤田
12	○兵庫県相談支援専門コース別研修 「相談支援専門員に求められる意思決定支援の展開」	姫路市	松原・村田・石井
1	○あかりの家 SIK プロジェクト研修会 (福原氏)	高砂市	濱口、石井、松原、藤田、春名 梶原
2	○高砂市地域包括支援センター 介護支援専門員連携研修会 「介護支援専門員が関る障がい者支援の制度について」	高砂市	濱口、春名、石井

## III 実習受入

### (1) 学生、施設職員等

機関名	人数	日数	合計
関西福祉大学(3回生) 9月7日～13日	2人	6日	12日



Ⅳ 関係団体等への役員や職員派遣等 (基幹センター職員は別紙記載)

県立東はりま特別支援学校 学校評議員会	学校評議員	13. 6～	濱口
一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク	副代表理事	13. 11～	濱口
	事務局長	17. 6～	
東播磨相談事業者チーム支援ネットワーク	主宰者、構成員	08. 5～	濱口、石井、松原、梶原、春名、藤田、村田、金鹿
加古川雇用(連絡)調整会	委員	07. 11～	濱口
西宮市障害者介護給付費審査会	委員	14. 9～	濱口
兵庫県合理的配慮アドバイザー	委嘱	16. 5～	濱口
兵庫県医療的ケア児支援関係者連絡会議	委員	17. 9～	濱口
高砂市 権利擁護センター設置検討委員会	委員	19. 5～	濱口
加古川市 成年後見制度利用促進及び権利擁護制度検討委員会	委員	19. 5～	濱口
兵庫県障害福祉審議会「情報」分科会	委員	20. 1～7	濱口

Ⅴ 地域自立支援協議会への役員や職員派遣等 (基幹センター職員は別紙記載)

兵庫県	自立支援協議会	相談支援部会オブザーバー	08. 8～	濱口
東播磨圏域	自立支援協議会	委員	09. 12～	濱口
明石市	地域自立支援協議会	運営会議 メンバー	13. 12～	濱口
加古川市	障がい者自立支援協議会	全体会 委員	09. 12～	濱口
		くらし、こども、しごと	10. 5～	濱口
		相談支援ネット、差別解消	18. 4～	濱口
播磨町	地域自立支援協議会	推進会議 オブザーバー	10. 6～	濱口
		くらす部会委員/オブザーバー	10. 7～	春名 / 濱口
		はたらく部会部会長/オブザーバー	10. 9～	春名 / 濱口
		全体会オブザーバー	11. 4～	濱口
稲美町	地域自立支援協議会	運営会議 メンバー	11. 4～	濱口
		各部会 オブザーバー	11. 4～	濱口
高砂市	障がい者自立支援協議会	全体会構成員/ オブザーバー	08. 2～	濱口
		運営会議 委員	10. 6～	濱口
		くらし部会オブザーバー	12. 4～	濱口、
		ヘルパー事業所連絡会	19. 5～	石井、梶原 / 濱口
		こども部会オブザーバー	12. 5～	濱口
		課題抽出の会、高砂コンサルタ	17. 3～	相談員全員
		本人会 高砂ユニナビ	18. ～	随時

Ⅵ 講師、発表、寄稿等 (基幹センター職員は別紙記載)

兵庫県	相談支援従事者初任者研修	合同講義 8/1・2、集合講義 8/23 演習9/26・27、10/3・4、10/10・11	講師 パネラー 司会他	濱口
	相談支援従事者現任研修	8/7～8、9/4～6		
	東播磨圏域フォローアップ研修	11/26		
	高次脳機能障害サポートフレンズほっとパル研修会 「支援者の声から考えよう」	4/14	講師	濱口
	加古川市自立支援協議会 差別解消部会 「差別解消法と合理的配慮について」	4/17	講師	濱口
	明石市基幹相談支援センター相談員研修会 「忘れていませんか？大切な何かを」	4/18	講師	濱口
	兵庫県自閉症協会 加古川高砂ブロック総会 「お母さん(お父さん)が倒れたら・・・」	4/23	講師	濱口
	高砂市生きがい対応型デイサービスセンター地域支えあい講座 「障害理解について」	4/25	司会等	濱口

高砂市手をつなぐ育成会研修会「子どもたちの未来の暮らしに向けて」	6/17	講師	濱口
加古川市内幼稚園職員研修会「特別支援の輪をつなぐ」	6/20	講師	濱口
高砂市生きがい対応型デイサービスセンター地域支えあい講座「障害理解について」	6/27	司会等	濱口
播磨町自立支援協議会 推進会議「地域生活支援拠点について」	6/28	講師	濱口
東はりま特別支援学校 進路研修「子供たちが豊かに生きるために」	7/3	講師	濱口
作業療法士会 あさひの会研修「地域移行について」	7/26	講師	濱口
東はりま特別支援学校 支援部研修「福祉と境域の連携について」	7/30	講師	濱口
高砂市肢体不自由児者親の会研修会「子どもたちの未来の暮らしに向けて」	9/12	講師	濱口
兵庫県手をつなぐ育成会 「地域生活援助者養成講座「支援の基本」	9/18	講師	濱口
ささゆり会研修会「障害のある人と共に生きる社会を」	9/28	パネル司会	濱口
兵庫県立特別支援学校 PTA 連合協議会研修会「家族が倒れたらどうする？」	10/4	講師等	濱口
加古川市家庭教育学級 翔の会「意思決定支援について」	10/18	講師	濱口
西・中播磨かぞくねっと研修会「親なきあと子供達の明日は・・・」	10/20	講師	濱口
稲美町障害者自立支援協議会 「障害のある人と共に生きる」	10/24	講師	濱口
精神保健福祉センター地域移行研修「精神障害者の地域移行の報告」	10/29	司会等 発表者	濱口 藤田
加古川養護学校医療的ケア委員 P T A 研修「親なきあとの支援に備える」	11/7	講師	濱口
つつじの家 法人研修会「虐待防止について」	11/9	講師	濱口
加古川市6地域包括支援センター合同研修会「高齢障害者支援の知るについて」	11/15	パネル司会	濱口
西脇市障害福祉事業研修会「援助者としての支援技術の向上」	11/19	講師	濱口
加古川市肢体不自由児・者父母の会研修会「子どもたちの未来に暮らしに向けて」	11/20	講師	濱口
高砂市生きがい対応型デイサービスセンター地域支えあい講座「障害理解について」	11/28	司会等	濱口
あしたば家族会 研修会「将来の暮らしの選択肢について」	12/21	講師	濱口
野口公民館 家庭教育学級「新しい福祉の現状について」	1/17	講師	濱口
稲美町障害者自立支援協議会 「障害のある人とその家族の切なる思い」	2/3	コーディネーター	濱口
加古川市手をつなぐ育成会 「本人の気持ちどう考える？意思決定支援」	2/7	講師	濱口
伊丹スクールキルト研修会 「虐待防止について」	2/7	講師	濱口
高砂市地域包括支援センター研修「介護支援専門員が関わる障がい者支援の制度について」	2/19	講師	濱口
第26回あかりの家事例研究会冊子「職員が生きがいを持って輝けるプロジェクトについて」	2/9	寄稿	濱口



## 2019 (R. 1) 年度

# 高砂市障がい者基幹相談支援センターみんと 事業報告書

2020. 3. 31 現在

高砂市障がい者基幹相談支援センターは、高砂市から委託を受けて今年度4月1日に「みんと」の愛称でスタートした。だれもが住み慣れた高砂市で、安心して自分らしく暮らせるようにと「みんと」に込めた思いは、“みんなとともに”。主に4つの役割を展開する。無我夢中であつという間の一年間であったが、今、一つひとつの実践を振り返ると、一日、いちにち相談支援に向き合った長い一年間だった。地域における相談支援の中核的な役割を担う障がい者基幹相談支援センターとしての役割を果たせるにはまだまだ経験と実践が必要である。ここに初年度の実践を報告する。

### ‘2019 (R. 1) 年度 高砂市障がい者基幹相談支援センター みんとの4つの実践

#### I 総合相談

##### 1 相談支援を行った障害（児）者の人数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%	
障がい者	身体障害	2	23	21	34	38	21	15	13	9	30	27	40	273	12%
	重症心身障害	3	4	0	0	0	9	0	0	0	2	0	0	18	1%
	知的障害	3	16	19	33	14	19	13	26	31	57	70	48	349	15%
	精神障害	2	54	77	79	44	43	39	50	52	40	26	60	566	24%
	発達障害	4	3	27	40	34	39	41	51	93	43	18	39	432	19%
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	その他	14	15	25	19	31	13	20	22	10	15	13	5	202	9%
	小計	28	115	169	205	161	144	128	162	195	187	154	192	1840	79%
障がい児	身体障害	0	12	4	2	0	0	6	0	0	0	0	24	1%	
	重症心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	
	知的障害	2	8	16	33	31	8	29	23	53	74	48	13	338	15%
	精神障害	0	0	0	0	0	11	0	1	0	0	0	0	12	1%
	発達障害	4	3	7	11	13	6	22	20	3	12	8	3	112	5%
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0%
	小計	6	23	27	46	44	25	57	44	56	86	56	17	487	21%
合計	34	138	196	251	205	169	185	206	251	273	210	209	2327	100%	

## 2 相談者種別

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	3月
当事者	本人	4	39	38	68	36	44	37	57	58	34	39	57	511	22%
	家族・親族	11	34	27	32	28	34	31	53	59	60	52	30	451	19%
	障がい者団体	0	0	1	1	7	1	0	0	0	2	1	0	13	1%
支援機関	相談支援事業所	4	10	35	38	29	32	39	29	44	61	33	54	408	18%
	サービス事業所	2	17	27	24	17	13	9	15	11	29	21	24	209	9%
	専門支援機関	3	4	7	14	20	7	10	5	12	10	13	6	111	5%
市	障がい・地域福祉課	4	13	9	24	22	15	10	10	2	6	4	9	128	6%
	高年介護課	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	0%
	生活福祉課	0	2	0	0	1	0	0	0	6	4	4	1	18	1%
	その他の課	0	0	0	0	5	0	12	11	2	2	4	2	38	2%
関係機関ほか	地域包括	0	1	4	0	0	5	0	3	3	1	0	3	20	1%
	健康福祉事務所	2	5	9	8	5	0	3	0	0	1	0	0	33	1%
	教育機関	0	1	7	13	6	2	11	11	28	35	17	4	135	6%
	医療機関	0	0	4	8	19	8	8	5	1	0	0	4	57	2%
	民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	その他	3	12	28	21	9	8	15	7	25	28	22	14	192	8%
合 計		34	138	196	251	205	169	185	206	251	273	210	209	2327	100%

## 3 支援方法

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	3月
訪問		3	10	19	23	28	15	13	16	16	18	11	6	178	8%
来所相談 (市役所相談室)		6 (3)	17 (9)	12 (7)	18 (5)	15 (7)	9 (4)	9 (7)	7 (6)	7 (3)	1 (1)	9 (6)	3	113 (58)	5%
同行		2	0	5	6	1	3	4	15	6	3	2	3	50	2%
電話・FAX		15	105	143	167	131	112	149	136	181	196	150	168	1653	71%
電子メール		0	0	1	10	6	16	4	16	32	39	17	17	158	7%
個別支援会議		1	2	3	6	3	5	1	1	4	4	8	5	43	2%
関係機関との調整		7	2	8	1	6	2	2	1	2	2	4	0	37	2%
その他		0	2	5	20	15	7	3	14	3	10	9	7	95	4%
合 計		34	138	196	251	205	169	185	206	251	273	210	209	2327	100%



#### 4 支援内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	3月
① 福祉サービスの利用に関する支援	8	51	93	72	44	53	31	66	78	76	50	62	684	29%
② 障害や病状の理解に関する支援	2	3	4	6	10	10	6	5	3	3	9	4	65	3%
③ 健康・医療に関する支援	1	9	20	34	16	12	8	22	8	5	13	27	175	8%
④ 不安解消・情緒安定に関する支援	5	14	6	20	19	12	15	11	25	11	18	25	181	8%
⑤ 保育・教育に関する支援	2	11	17	30	22	12	41	32	50	78	47	19	361	16%
⑥ 家族関係・人間関係に関する支援	1	3	2	4	17	9	11	2	5	7	0	24	85	4%
⑦ 家計・経済に関する支援	0	4	3	9	9	16	18	35	51	43	48	3	239	10%
⑧ 生活技術に関する支援	0	2	1	6	12	11	2	4	5	15	1	3	62	3%
⑨ 就労に関する支援	1	5	3	1	5	5	35	4	11	14	9	4	97	4%
⑩ 社会参加・余暇活動に関する支援	3	4	1	15	9	10	9	12	2	4	7	8	84	4%
⑪ 権利擁護に関する支援	0	3	0	1	0	1	2	4	5	5	1	10	32	1%
⑫ その他（社会資源の活用など）	11	29	46	53	42	18	7	9	8	12	7	20	262	11%
（内 訳）														0%
介護保険に関すること						1				1	1		3	0%
生活保護に関すること		4	1	1									6	0%
虐待防止に関すること					2	1							3	0%
成年後見制度に関すること				3	1	1					2		7	0%
その他	11	25	45	49	39	15	7	9	8	11	4	20	243	10%
合 計	34	138	196	251	205	169	185	206	251	273	210	209	2327	100%

## II 相談支援体制の整備

高砂コンサルタを2か月毎に定期開催する。高砂コンサルタは平成29年6月に高砂市障がい者自立支援協議会で立ち上がったワーキングだ。コンサルタとは参加者みんなで名付けた名称で、スペイン語

の「相談」という意味。相談支援専門員の自己研鑽、学び、繋がり場として、東播磨圏域障害者等相談支援コーディネーター濱口氏をオブザーバーに迎え、相談支援専門員の資質向上を目的としたワーキングである。今年度、自立支援協議会から独立し基幹センターが企画運営を担い相談支援事業所の人材育成と連携の強化に取り組む。又、東播磨圏域 基幹相談支援センター連絡会に参画し、圏域の基幹センターと繋がり、相談支援力の向上に努める。

### 1 高砂コンサルタ 開催月日と研修内容と出席人数

月/日	議 題	会場と出席者	参 加 者
第1回 4/9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介</li> <li>○高砂市障がい者自立支援協議会について <ul style="list-style-type: none"> <li>・体制について・本人会の報告</li> </ul> </li> <li>○高砂市障がい者基幹相談支援センターについて</li> <li>○地域課題の検討（最終回）</li> <li>○今年度の取組みについて</li> <li>○部会・ワーキングの出席について <ul style="list-style-type: none"> <li>くらし部会・こども部会・ヘルパー事業所連絡会</li> </ul> </li> <li>○その他・東はりま特別支援学校上垣先生より（2市1町の来春卒業生についてのお知らせ）</li> </ul>	ユーアイ帆っと センター 2F会議室 越田・西野・川崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名</li> <li>○市街相談支援事業所 7ヶ所・7名</li> <li>○事務局：障がい地域福祉課障害者支援係 2名</li> </ul> 合計20名
第2回 6/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介</li> <li>○相談支援専門員の困りごと 本音トーク</li> <li>○モニタリング実施標準期間の見直し</li> <li>○施設外就労について説明（事務局・朝家さん）</li> </ul>	ユーアイ帆っと センター 2F会議室 越田・西野	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名</li> <li>○市街相談支援事業所 7ヶ所・7名</li> <li>○事務局：障がい地域福祉課障害者支援係 2名</li> </ul> 合計20名
第3回 8/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業所紹介「のじぎく高砂」</li> <li>○自己紹介</li> <li>○グループワーク「高砂コンサルタでしたいこと」</li> <li>○東播磨相談支援事業者チーム支援ネット研修会「就労支援の立場から」共有</li> <li>○事務局・朝家さんから</li> <li>○今さら聞けないこんなこと、あんなこと</li> </ul>	ユーアイ帆っと センター 2F会議室 越田・西野	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名</li> <li>○市街相談支援事業所 7ヶ所・7名</li> <li>○事務局：障がい地域福祉課障害者支援係 2名</li> </ul> 合計20名
第4回 10/8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業所紹介 加古川ドリーム</li> <li>○自己紹介</li> <li>○事例検討会（グループワーク）</li> <li>○基礎から学ぶ 相談支援Q&amp;A 事務局 朝家さん</li> </ul>	ユーアイ帆っと センター 1F会議室 越田・川崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名</li> <li>○市街相談支援事業所 7ヶ所・7名</li> <li>○事務局：障がい地域福祉課障害者支</li> </ul>



			援係 2名 合計20名
第5回 12/17	○自己紹介 ○事例検討会（グループワーク）高砂市のケースで困っていること ○第2回 基礎から学ぶ 相談支援QA 事務局 朝家さん	ユーアイ帆っと センター 2F会議室 越田・川崎	○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名 ○市街相談支援事業所 7ヶ所・7名 ○事務局：障がい地域福祉課障害者支援係 2名 合計20名
第6回 2/18	○自己紹介 ○事例検討会（グループワーク） ○第3回 基礎から学ぶ 相談支援QA 事務局 朝家さん	ユーアイ帆っと センター 2F会議室 越田・川崎	○市内相談支援事業所 6ヶ所・9名 ○市街相談支援事業所 3ヶ所・3名 ○事務局：障がい地域福祉課障害者支援係 2名 合計14名

## 2 東播磨圏域 基幹相談支援センター連絡会（障害者等相談支援コーディネート事業）

月/日	議 題	会場と出席者	参加センター
第1回 6/3	○自己紹介 ○情報交換 ○基幹相談支援センター間の連携・協力について ○お悩み相談	加古川市障がい者基幹相談支援センター 越田・西野	○加古川市 ○明石市 ○高砂市
第2回 6/18	○自己紹介 ○情報交換 ○基幹相談支援センター間の連携・協力について ○お悩み相談	明石市基幹相談支援センター 越田・川崎	○加古川市 ○明石市 ○高砂市
第3回 令和2年 2/18	○自己紹介 来年度開設予定の稲美町基幹相談支援センター準備室初参加 ○情報交換 ○基幹相談支援センターの今後の動向 ○お悩み相談	高砂市障がい者基幹相談支援センター 越田・西野・川崎	○加古川市 ○明石市 ○高砂市 ○稲美町準備室

その他、3市2町基幹連絡調整会議（11/18・越田）に参画

### Ⅲ 権利擁護・虐待の防止

成年後見制度について、親亡き後の生活についてなど権利擁護に関わる相談を受け付ける。成年後見制度の相談は年間7件。虐待の防止に関しては年間3件あり高砂市障害者虐待防止センターと連携する。

権利擁護全般では年間32件受け付けた。又、高砂市社会福祉協議会主催の権利擁護センター設置検討委員会の視察研修会（令和1年11月12日）に参加し、以降、同委員会に基幹センターとして参画し、高齢者、障がい者の権利を守るための支援策と地域のネットワークなどについてともに考える。

#### Ⅳ 障がい者自立支援協議会の参画

“だれもが、じぶんらしく、暮らせるまち”を基本理念とする高砂市福祉計画に基づいて構成されている協議会に参画し地域の関係機関のネットワークづくりを推進する。

会議・活動	分類		参加者	実施日
全体会			越田	2020. 2. 24
運営会議			越田	2019. 4/23・10/15
専門部会	くらし部会		越田	2019. 6/6・8/1（ヘルパー事業所連絡会と合同）・10/3・12/5（防災研修会）・2020, 2/6
	こども部会		西野	2019. 5/7・7/9・9/10・11/12 2020. 2/25・令和元年度性教育研修 1/29
ワーキング	課題抽出の会		越田・西野	2019. 8/30
	こども事業所		西野	2019. 4/26・6/24・9/25・11/27・2020. 2/19
	ヘルパー事業所連絡会		越田	2019. 5/16・8/1（暮らし部会と合同）・11/14
その他	本人会		越田・西野・川崎	2019. 9/7
	高砂ユニナヴィ	サッカー教室	越田	2019. 5/19
		映画上映会 「みんなの学校」	越田・西野・川崎	2019. 8/3

#### その他 研修会参加・研修講師

月/日	研修名	出席者（講師）
4/17	障害者差別と合理的配慮を考える	越田・西野
5/20	財産マネジメント	越田
7/10	東はりま特別支援学校・高等部1年生保護者対象進路説明会	越田（講師）
7/12	障害年金の請求手続き	越田
7/19	東播磨圏域チーム支援ネット	越田・西野
7/20	あかりの家 SIK プロジェクト研修会（玉木氏）	西野・川崎
7/29	若者就労支援の現場から考える早期関わりの必要性	越田
8/1、2	相談支援 初任者研修 合同講義 集合講義	越田・西野
8/23	相談支援 初任者研修 合同講義 集合講義	越田・西野
8/26	ファシリテーションの基礎的理解	越田
9/24	自殺未遂者対策ネットワーク研修	越田



10/11	広げようやさしいまちづくり	越田
10/17	加古川公民館家庭教育学級	川崎（講師）
11/7	ステップハウス後援会	西野（講師）
11/12	総社市権利擁護センター視察研修	川崎
11/16	あかりの家 SIK プロジェクト研修会（楠氏）	西野・川崎
11/26	相談支援フォローアップ研修	越田・西野
12/5	災害時障害者支援を考える	越田・西野
12/6	障害者就労支援研修会	西野
12/10	相談支援専門員に求められる意思決定支援の展開	越田
令和2年1/24	権利擁護講演会 終活への“一歩”	越田
1/11	あかりの家 SIK プロジェクト研修会（福原氏）	越田・西野
1/29	思春期を迎える子どもの性教育	越田
2/19	高砂市介護支援専門員連携研修会	越田・西野・川崎
2/22	認知症や障がいのある人も安心して暮らせるまちづくり	川崎
2ヶ月毎/1年間	加古川雇用連絡調整会議	西野

以上

# 平成31年度 ひょうご発達障害者支援センター 事業報告

令和2年3月31日

## I 県レベル的活動

### 1 重点的取り組みに対する総括

#### (1) 家族支援の取り組みの普及

##### ① クローバーCRAFTプログラムのクローバー内での実施 普及

相談者の中からプログラムで効果が得られると思われる対象者を選び実施した。プログラムの有用性の検証、スタッフの能力向上を図った。また、ひきこもり支援の会議等でプログラムの紹介を行い、普及を図った。

##### ② 家庭療育支援講座の児童発達支援事業所への普及、継続実施

研修会を実施、「発達障害実務者養成講座」内での周知を行った。これまでは市町の保健センター等の行政で実施したが、今年度から新たに児童発達支援事業所で実施した。(9か所) 今後、3年間の実施定着支援を行う。また、これまでの継続実施を行っている機関も含め、今年度は18か所で実施定着支援を行った。

##### ③ ペアレントメンター事業の継続実施

県自閉症協会との共催での講演会の実施、発達障害実務者研修会での講演を行った。また、登録メンターに対し、活動状況の報告をお願いし、現状の確認を行う、また、関係機関からの派遣依頼の調整などを行い活動を広げた。

#### (2) 他害行為や触法行為等の対応力の必要な事例への予防的支援の検討と検証

他害行為や触法行為のある事例の生育歴等のデータを集め、傾向の分析を行った。次年度も引き続き件数を集め、傾向の分析を行い支援方法の検討を行う。

#### (3) 支援機関への支援の充実

直接的に発達障害者支援を行う機関にスタッフが出向き、対応助言等を行うコンサルテーションを行った。発達障害の支援について、知識だけでなく実践的な内容を盛り込んだ「発達障害実務者養成講座」を実施した。(児童期39名修了、成人期は43名参加 3日目が新型コロナウイルスの感染予防の為、延期のため修了せず)

また、発達障害者当事者向けのストレスの対処法などを学ぶプログラム(「ストレスマネジメント講座」)は、就労移行支援事業所での試行を行い、内容の確認とマニュアルの改訂を行った。

## 2 事業実施状況

### (1) 普及啓発・研修

#### ① 研修 (実5回 延9回、延参加者数 551人)

(参考:研修会詳細) ()内は共催機関名 【】 実施会場

日付	研修会名	内容	参加者数
5.16	家庭療育支援講座 研修会 【高砂市ユアアイ福祉 交流センター】	概要説明①講座の実施内容 ②実施にあたって ひょうご発達障害者支援センター 主任相談支援員 橋本美恵 講義「家庭療育支援講座の基礎理論」 加西ブランチ 主任相談支援員 平生尚之 氏 演習 「グループワークのすすめ方」 実践報告・意見交換	49
6.4	発達障害のある方の 相談支援にあたる支援者 研修会	講義「発達障害の基本的理解、クローバーについて」 講義「聞き取り時の相談票の使い方」 講義「面接の留意点」	69



	【神戸市教育会館】	グループワーク「面談のグループワーク」 圏域ごとに分かれて情報交換 ひょうご発達障害者支援センター ブランチ職員	
6.29 8.10 9.7 11.9 補講日 1.16	発達障害実務者養成講座 児童期 (兵庫県) 【中央労働センター】	1 日目 講義「子どもの発達とことば」 大阪人間科学大学名誉教授・精神科医 服部祥子 氏 講義「アセスメント-子どもの姿」 ひょうご発達障害者支援センター 主任相談支援員 橋本美恵 ワーク「シートから困った行動を考える」 ひょうご発達障害者支援センターセンター スタッフ 2 日目 講義「こども達を支援するために～小児科医からお願いしたいこと～」 姫路市立総合福祉通園センター 医師 小寺澤 敬子 氏 ワーク「シートから困った行動を考える」 ひょうご発達障害者支援センターセンター ブランチ スタッフ 3 日目 講義「子どもの理解と関わり」 ひょうご発達障害者支援センター 主任相談支援員 橋本美恵 講義「発達障害のある子の子育て ライフステージにそった支援と現状」 ペアレントメンター 講義「家庭療育支援講座について」 ひょうご発達障害者支援センター 主任相談支援員 橋本美恵 講義「個別支援計画とは」 西神戸高等特別支援学校 教諭 松井恵子 氏 4 日目 講義「子どもの育ちを支える家族への支援」 立正大学 心理学部 臨床心理学科 名誉教授 中田洋二郎 氏 講義「個別支援計画 2」 西神戸高等特別支援学校 教諭 松井恵子 氏	全日程 修了者 39 1 日目 51 2 日目 52 3 日目 45 4 日目 40 補講日 6
11.24	幼児期発達障害支援者 研修会 (姫路市総合福祉通園 センター) 【姫路市総合福祉会館】	基調講演: 「子供の時間に大切なことー生きる力を育むためにー」 大阪人間科学大学名誉教授・精神科医 服部祥子 氏 実践報告: 「集団における『気になる子』の育ちの環境を整える～コンサルテーション 事例を通して～」 ひょうご発達障害者支援センター 主任相談支援員 橋本美恵 「5歳児 みほちゃん(仮名)のコンサルテーションを通して学んだこと・保育 の中でできること」 播磨町立播磨西幼稚園 教諭 山口聖子 氏 まとめと助言 大阪人間科学大学名誉教授・精神科医 服部祥子 氏 講義「保育・教育現場を支える医療と福祉のしくみ」 姫路市総合福祉通園センター ルネス花北 所長 北山真次 氏	154
R2. 1.13 2.5 ※3 日目 (R2.3.13)	発達障害実務者養成講座 成人期 (兵庫県) 【中央労働センター】	1 日目 講義「発達障害と精神疾患ー鑑別の困難さと対応ー」 揖保川病院 副院長 中井祥博 氏 講義「発達障害の心理アセスメント」 演習「アセスメントのためのフォーマットの練習」 ひょうご発達障害者支援センター 相談支援員 山内雅樹	1 日目 43 2 日目 42

実施予定 だった)は 新型コロナ ウイルスの 感染予防 の為、延期	2日目 講義「成人期の支援と現状」 ひょうご発達障害者支援センター センター長 和田康宏 講義「就労支援—相談、評価、ジョブマッチング、定着支援について—」 兵庫障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 新谷正樹 氏 講義 演習「支援方法:ストレスマネジメント」 「支援方法:問題解決」、「支援方法:対人スキル支援」 兵庫教育大学大学院 特別支援教育専攻 障害科学コース 教授 井澤信三 氏
--	--

②講師派遣(県レベル機関の研修会、就労支援に関する講師派遣など)

(延 21 件 延参加者数 872 人)

【労働】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
5.23	ハローワーク職員研修「発達障害の疑いのある人の支援について」	25	和田	神戸
5.27	ハローワーク職員研修「発達障害の疑いのある人の支援について」	27	和田	神戸
12.18	兵庫労働局 発達障害トータルサポーター研修(web研修)	6	和田	神戸
R2.1.31	障害者活躍推進計画作成等説明会「発達障害のある人の就労について」	65	和田	神戸

【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
6.20	国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害者支援センター 職員研修会「ファミリーター」	42	和田	県外
6.21	国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害者支援センター 職員研修会「機関連携」	42	和田	県外
8.23	関西福祉大学 第8回子ども支援セミナー 第3分科会	35	橋本	西播磨
9.19	西播磨民生児童委員研修会「発達障害の理解と支援」	45	和田	西播磨
11.12	近畿乳児福祉協議会「発達障害の理解」「支援と課題」	53	橋本	神戸
R2.1.23	強度行動障害支援者研修会 実践研修「ファミリーター」	102	和田	神戸
R2.1.24	強度行動障害支援者研修会 実践研修「障害特性に基づくアセスメント」	102	和田	神戸
R2.2.6	強度行動障害支援者研修会 実践研修「ファミリーター」	121	和田	神戸
R2.2.7	強度行動障害支援者研修会 実践研修「障害特性に基づくアセスメント」	121	和田	神戸

【教育】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
8.1	小野南中学校区職員研修会「相談機関との連携について」	55	和田	北播磨
8.2	太子高校「発達障害のある人の青年成人期について」	53	和田	西播磨
8.4	加東市教育委員会 発達サポートセンター講演会 「発達障害のある人の就労支援について」	55	和田	北播磨
8.5	揖電教員研修会「心を育てる療育」	23	橋本	西播磨
8.22	県特別支援教育センター「発達障害のある人の成人期の支援」	54	和田	中播磨
9.20	神戸女学院大学 精神保健福祉研修「発達障害のある人の支援」	10	和田	阪神北

【家族】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
10.29	兵庫県育成会 学齢期・本人活動支援部会「心を育てる療育」	50	橋本	神戸

【一般】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
9.23	岡村ゼミナール「発達障害児の理解と関わり」	28	橋本	中播磨



③研究発表、論文、分担執筆等

内容	担当
あかりの家 事例研究会 「ひょうご発達障害者支援センター 実践事例集」	橋本、杉原、山内

④ホームページの運営、管理

内容	概要(件数、内容他)
更新回数	20回(研修会情報等)
訪問者数	延 21,425人(月平均延人数:約 1800人)
見られたページ数	延 316,969 ページ(トップページ>利用案内>市町窓口案内>…)

(3) 調査・研究

- ・触法行為や他害行為が見られる事例に対する支援実態調査：  
発達障害者支援センター、ランチでの既相談事例から、触法行為、他害行為が現れている事例の実態把握を行った。今後は、触法行為、他害行為が現れていない事例との比較を行い、リスク要因と考えられるものを見出していく予定にしている。

(4) 機関連携

①連絡協議会の実施 実施回数(延 1回)

協議会名	回数	日時	場所	内容	参加者数
連絡協議会	第1回	7.8	県民会館	・H30年度 事業報告 ・討議「中・高校生(16歳～18歳)年代への支援について」	20団体 38名

第2回の開催(R2.3.9開催予定だった)は新型コロナウイルスの感染予防の為、開催を中止した。その代わりに、各委員に資料を送付し、内容についての意見を FAX にて集約をした。

②ネットワーク会議等への出席 実施回数(延 27件)

主な会議名	役割	担当	
厚生労働省 発達障害の情報提供等事業に関する運営会議	委員	和田	
発達障害者支援センター 全国連絡協議会 役員会	副会長	和田	
全日本自閉症支援者協会	理事	和田	
兵庫県	発達障害者支援協議会	委員	和田
	発達障害者支援協議会 生活支援部会	委員	和田
	発達障害者支援協議会 医療部会	委員	和田
	発達障害者支援協議会 教育部会	委員	和田
	障害者雇用・就業支援ネットワーク会議	委員	和田
	発達障害者等就労支援連絡協議会	委員	和田
	障害者自立支援協議会相談支援部会	委員	和田
	広域特別支援教育連携協議会	委員	和田
	特別支援学校就職支援推進会議	委員	和田
	通級指導専門性充実検討会議	委員	和田
	ひきこもり対策検討委員会	委員	和田
	ひょうごユースケアネット推進会議 代表者会議	委員	和田
	ひょうごユースケアネット推進会議 実務者会議	委員	杉原

③ランチ業務調整会議(年 9回 兵庫県障害福祉課 参加)

- ・センター各ランチ間の業務上の調整、意見集約、関係機関情報の集約、活動に対する意見交換等を行う。  
3月18日に実施予定だった10回目に関しては、新型コロナウイルスの感染予防の為、中止とした。

(5) 県委託事業

事業名	内容
発達障害実務者養成講座	発達障害実務者養成講座(児童期、成人期)の実施

II ブランチ的機能(担当圏域:東播磨、淡路)

1 重点的取り組みに対する総括

(1) 市町支援体制の充実

**東播磨圏域** 市町相談窓口担当者と相談者の支援を一緒に行うことで、聞き取りのポイントなどを伝え、支援力の向上を図っていった。また、加古川市の窓口担当職員に対し、アセスメント、支援の仕方等の研修を行い、支援力向上を図った。

**淡路圏域** 月2回巡回相談を通して、相談支援員と調整、同席、訪問による相談を行った。また、相談支援専門員を集めて発達障害について、支援方法等の内容で研修を行い、支援力向上を図った。

(2) 丁寧な相談支援と支援機関への引継ぎ

相談者に所属機関のある場合、発達障害者支援センターの相談を通して本人のことをアセスメントし、その情報を基に、支援方法などを所属先に伝えることが多い。その際、アセスメントの内容を書面で作成し、個別調整会議等で分かりやすく伝えするようにした。また、相談後に通所支援機関等に新たに通うようになった事例についても同様に、相談を通して本人のことをアセスメントし、その情報を基に、支援方法などを通所機関に伝えた。

(3) 家族支援の充実

ひきこもりの家族支援プログラムである CRAFT を昨年度に受講していただいた2名の保護者に対して、フォローアップを実施し、「フォローアップという形で振り返りが出来て良かった」という意見があった。プログラムとして単発で終わってしまうのではなく、継続した知識の賦活や、立ち止まって現状を再確認、また、似た悩みを共有するピアとしての場が大切であると感じた。また、高校生年代の保護者のグループ支援として、将来を見据える上で、福祉サービスの現場を見学したり、大学進学をした本人からの話を聞いたり等の具体的なイメージが持てるような支援を行った。

2 事業実施状況

(1) 普及啓発 研修

①研修

○実施回数(実3回 延3回 参加者数 51人)

(参考:研修会詳細) ()内は共催機関名 【】実施会場

研修会名	内容	参加人数
ペアレントメンター説明会 【兵庫県立こども発達支援センター】	「県立こども発達支援センターの概要説明と見学」 兵庫県立こども発達支援センター センター長 野中路子 氏 「ペアレントメンター概要、これまでの活動概要、今後のこども発達支援センターでの展開について」 ひょうご発達障害者支援センターセンター スタッフ	5
ペアレントメンター講演会 (兵庫県自閉症協会・ 兵庫県立こども発達支援センター) 【兵庫県立こども発達支援センター】	講義「就学に向けての準備」  ペアレントメンター	42
ペアレントメンター相談会 (兵庫県立こども発達支援センター) 【兵庫県立こども発達支援センター】	個別相談	4



②講師派遣

○実施回数(延 18 件 延参加人数 501 人)

【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
8.21	淡路圏域障害者自立支援協議会「発達障害の理解 発達障害者支援センターについて」	32	和田	淡路
8.21	アミアミ職員研修「成人期の支援」	10	和田	淡路
10.17	みちしるべ神戸職員研修「発達障害の理解と支援」	32	和田	東播磨
11.18	播磨町学童保育「発達障害の理解」	25	橋本	東播磨
11.21	播磨町北部子育て支援センター「発達障害の理解と支援」	15	橋本	東播磨

【教育】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
4.26	東浦中学校「生徒への対応」	4	杉原	淡路
5.10	加古小学校「生徒への対応」	4	橋本	東播磨
7.19	神野小学校「子育てにおいて大切にしたいこと」	35	橋本	東播磨
9.1	播磨西幼稚園「子どもの気持ちになって一緒にやってみませんか 就学に向けて」	55	橋本	東播磨
9.3	稲美町教育委員会「サポートファイルの現状と課題」	30	橋本	東播磨
9.10	加古川東グループ幼稚園研修会「事例を通して」	24	橋本	東播磨
10.29	山手中学校「生徒への対応方法」	3	杉原	東播磨
R2.1.30	播磨町教育委員会「10年のコンサルテーションをふりかえって」	45	橋本	東播磨
R2.2.13	天満南幼稚園「年中児社会性を見立て」	5	橋本	東播磨
R2.2.14	放課後子ども教室研修会「発達の気になる子のかかわりの工夫」	40	杉原	東播磨

【家族】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
10.25	わたぼうし「サポートブックについて①」	10	橋本	淡路
11.29	わたぼうし「サポートブックについて②」	2	橋本	淡路
11.30	みどり丘こども園「心を育てる保育と療育」	50	橋本	東播磨
R2.1.10	播磨幼稚園「子どもの気持ちになって考えてみませんか 発達障害 子どもへのかかわりについて」	80	橋本	東播磨
R2.1.31	わたぼうし「社会生活をめざす療育」	8	橋本	淡路

(2) コンサルテーション

①関係機関へのコンサルテーション 実施回数(実 17か所 延 26件)

職員への対応方法や環境整備に関する助言・指導を訪問により実施。

実施対象機関	圏域	日程	担当	
高砂市	東播磨	みどり丘こども園	8.30	橋本
		美保里こども園	9.9	橋本
		鹿島中学校	7.3	杉原
播磨町	東播磨	播磨幼稚園	6.25、7.5、10.4、11.26	橋本
		播磨西幼稚園	11.15	橋本
		播磨保育園	7.25、10.10、R2.1.16	橋本
		蓮池保育園	6.7、R2.2.6	橋本
		蓮池幼稚園	9.26	橋本

稲美町	天満幼稚園		6.13、R2.1.20	橋本
	天満東幼稚園		R2.3.10	橋本
	バンビ第2 保育園		7.22	橋本
	加古小学校		12.4	橋本
	加古保育園		7.11	橋本
	加古幼稚園		10.31、R2.1.23	橋本
	母里保育園		8.6	橋本
	母里幼稚園		R2.2.18	橋本
	赤穂市		あしたば園	西播磨

②家庭療育支援講座 実施回数(実 2か所 延 15 件)

講座実施に当たり、児童発達支援事業所のスタッフへの技術付与を訪問により実施

実施対象機関	圏域	日程	担当
こども支援センター スマイル	東播磨	7.9、9.5、9.19、10.3、10.17、11.14、11.28、12.5	橋本 山内
一般社団法人 みんなの居場所ニーム		8.19、10.15、10.29、11.5、11.19、12.3、12.17	和田

(3) 相談支援

①相談・発達・就労支援状況

a 相談支援 (実 337 人、延 1,326 件) (昨年度:実 334 人、延 1,457 件)

前年度に比べ、実人数が 40 人減少している。一方、延べ件数はほぼ増減がないので、一人あたりの相談件数が増えていることが考えられる。年連別の割合は、成人期と 16 歳～18 歳が増加しており、幼児期、中学生が微減であった。

幼児期では診断前後の相談が多く、日々の育てにくさを感じどのように関わればよいか、進路や学校への準備をどうするか、将来どうなっていくのかという内容が多かった。小学生では、年齢相応のことができないことに違和感を感じて相談に来られることが多く見られた。子どもの得意不得意をアセスメントし、結果に応じた関わりを助言することが多かった。中学生は学校生活での不適応や、学習面の遅れについての相談が多く、クローバーでの相談後に個別調整会議を行う事例が見られた。高校生は進路の相談が多く見られた。これらの年代では、軽度知的障害を伴う相談が増加し、進路に大きく関わる内容の為診断や告知がテーマになっていった。

成人期の相談を大別すると、ひきこもり状態になっている事例と、就労をしていたが、うまくいかず、自身で発達障害の可能性を感じ相談に来られる事例に分けられる。ひきこもり状態の相談は、家族等の周囲の人からの相談が大半で、「家庭での様子を見ると発達障害の可能性があるのでないか」との理由で相談に来られる。「現状を変えていきたい、このままでよいか」ということが相談の主訴として多い。就労事例は、就職しても続かないとこと、特に対人関係構築の困難さから続かないことを理由にあげられる相談者が多い。

b 発達支援 (実 60 人、延 232 件) (昨年度:実 63 人、延 295 件)

前年度より実人数、延べ件数共に減少している。幼児の児童に対して、個別に課題を通して子どもへの関わりを保護者同席のもと指導助言した。また、発達支援を行っている保護者を対象にした勉強会を月 1 回行い、子どもの理解を深め、お互いの関わりを話し合い、大人になっていくことの視点を持って学びを深め、実際の生活と子育ての中で活かせるようにした。先輩の保護者の話を聞く機会を設けたり、互いの意見交換の場となり、保護者の気持ちの変化は大きく、子育てへの姿勢が変化した人が多かった。また、所属機関への連絡調整を積極的に図り、本人の見立てをお伝えし理解の一助となるようにした。

不登校の事例では、福祉サービスの利用が難しい事例において、登校に向けて、定期的来所を継続できる場として利用した。高校生では一般校に所属する子どもの保護者対象のグループを行った。そのうち、卒業後は進学する子ども達の保護者グループと、卒業後に福祉サービス利用を検討する保護者グループを実施した。前者は、年齢に応じた子どもとのかかわり方がテーマになる。大学生になった当事者にも来所してもらい、率直な意見を発信してもらうことができた。後者は、福祉サービスの情報を得る機会として実際の事業所見学を行った。両者共実際の現場を見ていただくことができ、参加者からは「心の準備ができた」と将来を見据えた関わりをイメージすることに繋がるような感想が聞かれた。

成人期の事例では、相談者の中から必要と思われる人に対し、ストレスマネジメント講座、クローバー-CRAFT プログラムを実施した。また、進路を考える上で自身を理解することを目的に発達検査を実施した。



c 就労支援(実 51 人 延 203 件) (昨年度:実 54 人 延 221 件)

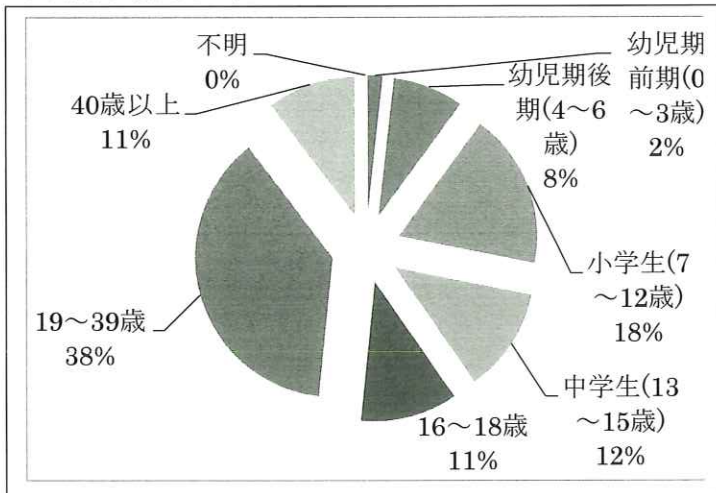
昨年度に比べ、実・延件数ともに微減していた。相談内容としては、既就職者への職場定着に向けての相談や今後の就労の方向性についての相談が多かった。

障害開示をしている事例では、就労移行支援事業所担当者や就業・生活支援センター担当者等の他機関の支援者と共に職場訪問を行うなどの支援を行った。職場に訪問できないケースでは、本人から聞いた話を整理して、社内で相談できそうな人物を具体的に伝えて、まとめた内容を話してもらうこととした。障害非開示の事例では、定期的な来所相談を通して、会社での困りごとを聞き、対応方法を一緒に検討した。

就労を目指している相談者に対しては、面接練習や履歴書の書き方の指導などを実施した。また、いきなり一般就労が厳しいと感じた相談者に対しては、職能評価を受けて自身の作業面での得手不得手と向き合うことや、福祉サービスの利用を検討した。

(参考データ)

(a)相談支援(実人数)



(b)発達支援(実人数)

	人数	%
幼児期前期(0～3歳)	3	5
幼児期後期(4～6歳)	18	30
小学生(7～12歳)	18	30
中学生(13～15歳)	8	13
16～18歳	9	15
19～39歳	2	3
40歳以上	2	3
不明	0	0
合計	60	100

(c)就労支援(実人数)

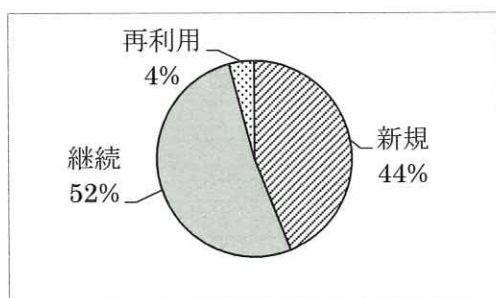
18歳以下	1
19～39歳	36
40歳以上	14
合計	51

(d)ライフステージごとの障害種別(相談支援実人数)

障害種別	幼児期前期(0～3歳)	幼児期後期(4～6歳)	小学生(7～12歳)	中学生(13～15歳)	16～18歳	19～39歳	40歳以上	合計
自閉症(知的障害の有無不明)	0	5	3	1	2	2	1	14
自閉症(知的障害を伴う者)	1	9	6	6	2	8	0	32
自閉症(知的障害を伴わない者)	0	1	7	0	1	5	0	14
アスペルガー症候群	0	0	2	2	5	12	9	30
広汎性発達障害(知的障害の有無不明)	0	0	7	8	4	13	3	35
広汎性発達障害(知的障害を伴う者)	0	0	1	2	2	15	1	21
広汎性発達障害(知的障害を伴わない者)	0	1	3	6	5	15	3	33
AD/HD	0	0	6	2	4	8	1	21
LD	0	0	0	0	0	1	0	1
その他(発達性言語障害・協調運動性障害)	1	3	1	1	3	9	3	21

不明(未診断も含む)	4	9	25	13	10	40	14	115
合計	6	28	61	41	38	128	35	337
「不明(未診断も含む)」割合	67%	32%	41%	32%	26%	31%	40%	34%

(e)新規・継続・再利用の内訳(相談支援 実人数)



(f)年齢ごとの相談主訴

	幼児期 (0~6歳)	小学校 (7~12歳)	中・高生 (13~18歳)	19歳以上
相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい	8	9	5	13
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	22	37	47	74
利用できる制度について知りたい(手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど)	1	1	2	5
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	1	1	5	10
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	16	36	30	32
進路や将来の生活に関する相談をしたい	11	3	13	22
対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)	1	12	9	21
今後の就労について相談したい	0	0	1	12
現在勤めている職場に関する相談をしたい	0	0	1	9
その他	3	9	9	16
合計	63	108	122	214

#### (4) 機関連携

①達障害者支援体制の整備及び機関連携のためのネットワーク会議等への出席  
実施回数(延 25 件)

会議名	役割	担当
兵庫県 播磨東地域特別支援教育連携協議会	委員	和田
加古川市 障害者雇用連絡会議	委員	和田
障害者自立支援協議会 こども部会	委員	橋本
高砂市 地域自立支援ネットワーク会議	委員	和田
教育委員会	専門家チーム委員	橋本
稲美町 就学サポート会議	委員	橋本

②個別調整会議 実施回数(延 33 件)

小学生 5 件、中学生 9 件、16~18 歳 8 件、19~39 歳 11 件と、他機関との連携を基に相談者に関わっている相談が多くある。一方で、前年比で 16 件減になっており、特に、成人期の相談者の会議が 10 件減となっていた。これまでの所属機関を卒業し、一般就労等の新たな道へと進んだ人もいれば、大学を卒業して他圏域での生活を始めた人もいた。



③付置施設 あかりの家との連携

	内容
児童デイサービス あかりの家	・継続的な専門的療育を行うことが有用と思われる事例 (自閉症、軽度知的障害)
障害者支援施設 あかりの家 地域支援センター あいあむ	・福祉サービスの利用が必要な事例について、相談支援専門員と連携をした事例が多数 ・サービス等利用計画の作成において連携した事例

(5) 調査・研究

- ・触法行為や他害行為が見られる事例に対する支援実態調査：  
発達障害者支援センター、ランチでの既相談事例から、触法行為、他害行為が現れている事例の実態把握を行った。今後は、触法行為、他害行為が現れていない事例との比較を行い、リスク要因と考えられるものを見出していく予定にしている。

III 職員体制

(1) 相談時間 (月)～(金)の平日 9:00～17:00

(2)担当

① センター長	就労支援 担当	和田 康宏
② 主任相談支援員	発達支援 担当	橋本 美恵
③ 相談支援員	発達支援 担当	杉原 利恵
④ 相談支援員	相談支援 担当	山内 雅樹

管理責任者 坊垣 勝彦(あかりの家 副施設長 兼務)

(3) 職員研修

研修名	日付	受講者
発達障害者支援センター全国連絡協議会 研修会	6.14、6.15	和田
全日本自閉症支援者協会 研究大会	11.7、11.8	和田
令和元年度高等学校における通級による指導実践研究協議会	11.25	杉原
発達障害者支援センター全国連絡協議会 近畿ブロック研修会	12.21	和田、杉原、山内

(4) 職員の資格・免許取得状況(含、任用資格、受講証明)

資格・免許	人	資格・免許	人
公認心理師	2	臨床発達心理士	1
臨床心理士	2	教諭	3
特別支援教育士	1	保育士	1
社会福祉主事	1	WAIS-III知能検査研修受講	1
新版 K 式発達検査中級研修修了	1		

## 多機能型事業所 ワークホーム高砂 事業報告書

2020. 3. 31現在

## I 利用者状況

## 1 定員と契約者数 (単位: 人)

事業種別	定員	契約者数
(1) 生活介護事業	12	14
(2) 就労継続支援B型事業	28	28
合計	40	42

## 2 市町別契約者数 (単位: 人)

市町名	生活介護事業	就労継続B型事業	計
高砂市	7	17	24
加古川市	1	4	5
播磨町	1	2	3
小野市	0	1	1
姫路市	5	4	9
合計	14	28	42

## 3 利用者年齢構成

## (1) 生活介護事業 (単位: 人)

年齢	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男	0	3	0	0	3	0	4	1	0	11	
女	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3	
合計	0	3	0	0	4	1	4	2	0	14	

	男性	女性
最少年齢	21歳0ヶ月	38歳0ヶ月
最高年齢	53歳4ヶ月	50歳5ヶ月
平均年齢	38歳7ヶ月	43歳5ヶ月
男女平均年齢	39歳8ヶ月	

## (2) 就労継続支援B型事業 (単位: 人)

年齢	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男	1	0	5	7	4	2	1	0	1	21	
女	0	0	0	0	4	2	1	0	0	7	
合計	1	0	5	7	8	4	2	0	1	28	

	男性	女性
最少年齢	18歳11ヶ月	37歳4ヶ月
最高年齢	56歳0ヶ月	45歳10ヶ月
平均年齢	34歳4ヶ月	41歳3ヶ月
男女平均年齢	36歳1ヶ月	



#### 4 利用延べ人数等

##### (1) 生活介護事業

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
延人員	292	303	277	304	287	296	298	293	283	280	281	291	3,485

##### (2) 就労継続支援B型事業

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	29	29	29	29	29	29	29	28	28	28	27	28	342
延人員	608	641	567	632	538	610	634	576	554	553	525	558	7,046

##### (3) 利用者の契約の状況 (1019年4月1日～2020年3月31日)

- ① 生活介護事業 …… 退所者1名 サービス変更1名  
 ② 就労継続B型事業 …… 退所者1名 新規契約者1名 サービス変更退所1名

#### 5 障害支援区分

##### (1) 生活介護事業

(単位：人)

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	1	0	3	3	7
加古川市	0	0	1	0	1
播磨町	0	1	0	0	1
姫路市	0	2	1	2	5
合計	1	3	5	5	14

##### (2) 就労継続支援B型事業

(単位：人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	4	0	5	5	3	0	0	17
加古川市	0	0	1	2	1	0	0	4
播磨町	0	0	2	0	0	0	0	2
姫路市	2	0	0	1	1	0	0	4
小野市	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	6	0	8	8	5	1	0	28

#### 6 知的障害の程度 (「療育手帳」の判定による)

区分	重度	中度	軽度	なし	合計
男	17人	11人	4人	0人	32人
女	7人	3人	0人	0人	10人
計	24人	14人	4人	0人	42人
比率	57%	33%	10%	0%	100%

#### 7 自閉症または自閉的傾向を有する者 (入所時の諸書類をもとに集計)

区分	男	女	計
人員	17/32	2/10	19/42人
比率	53.1%	20%	45.2%

8 その他の障害、てんかん (単位：人)

区 分			男	女	計	総計
身 障	肢体	手帳所持	1 (2種6級)	0	1	2
	難聴	手帳所持	1 (1種2級)	0	1	
精神科薬		てんかん	4	0	4	4
延べ人数			6	0	6	6

9 利用者の通所方法 (単位：人)

方 法		徒 歩	自 転 車	バ ス	J・R	バスと J・R	山 陽 電 車	付添 通 所
男	32	10	7	1	3	0	1	10
女	10	2	2	0	2	0	2	2
計	42	12	9	1	5	0	3	12

II 生活支援

1 日 課

8:50	来所
9:00	作業
10:30	休憩 (10分) ※夏場は30分毎に水分補給
12:00	昼食 (60分) ※コロナ対策のため休憩時間を分ける
13:00	作業
15:00	休憩 (10分) ※夏場はスポーツ飲料を提供
16:50	全作業終了
17:00	帰宅

2 余暇等の活動

(1) 昼休憩の過ごし方

休憩は「食堂兼休憩室」及び、更衣室や各自の好みの場所で自由にとっている。なお、自閉症の方については、落ち着ける環境を整える必要性から、食堂内に固定の席を設けるなどの工夫を行っている。昼休憩が唯一のくつろげる時間となっていることから、昼食後にコーヒーや紅茶を楽しんでいただけるよう“わーくわく喫茶”を継続実施した。今年度もコーヒーを淹れるところから提供するところまで、スタッフとして利用者に参加してもらった。また、今年度の“わーくわく喫茶”では、利用者のリクエストに応え、コーヒーだけでなくミルクティーや期間限定でアップルティーなどの提供も行った。その他にも、健康維持の一環として、毎日10分程度のウォーキング活動も取り入れた。

(2) 休息時間の過ごし方

音楽、ゲーム、絵描き、談話等、利用者の興味や関心に合わせ自由に過ごせるように配慮するほか、自由な時間を過ごすことが苦手な利用者には、職員が話題、課題等を提供し、会話や余暇を楽しんでいただけるように配慮した。

3 クラブ活動・サークル活動

(1) 料理クラブ

今年度は全利用者が料理を楽しみ、技術を学ぶことをテーマに行った。1回に3～4名の利用者が2名のボランティアの支援を得て、包丁の扱い方、言葉遣い等を学びながら、季節の食材を利用した調理に挑戦した。3月の実施については新型コロナウイルスの影響を受け実施を見送った。(曾根公民館にて計11回 毎月1回実施) (ボランティア：魚橋さん、崎田さん)



(2) サークル活動

余暇活動の一環として月に2回（水曜日）、作業終了後の15:30～16:30までの約1時間、サークル活動を実施。サークル活動では、月毎に担当職員を決め、その都度、「スポーツ」「文化」に分かれて行った他、夏にはかき氷作り等季節に合ったサークル活動を行った。

4 行事関係

(1) 主な年間行事

4月	お花見会
5月	のじぎくスポーツ大会（陸上）、ばんたん親善運動会
8月	かき氷大会
9月	一泊旅行（岡山・香川）
10月	保護者会バーベキュー大会
11月	ばんたんゆうあい文化祭、五色精光園祭（納豆販売）
12月	保護者会クリスマス会
3月	お疲れさん会

(2) 一泊旅行

2019年9月8日、9日、利用者41名、職員11名が大型バス1台を貸し切る一泊旅行を実施し、倉敷散策とレオマリゾートの旅行を楽しんだ。行き先は「倉敷美観地区」と「ニューレオマワールド」等で、各自自由行動では、5グループに分かれて班行動をして楽しんだ。「琴平温泉」では、沢山の利用者がカラオケを披露するなど、楽しい二日間を過ごした。また、入浴や睡眠など普段関わる機会が少ない場面を見る貴重な時間となった。

(3) のじぎくスポーツ大会

5月25日（土）、三木市総合防災公園総合陸上競技場において3名の利用者が参加した。男性1名が100m走（青年の部）、男性1名が200m走（青年の部）、男性1名が1500m走（壮年の部）に参加。金メダル1個を獲得した。

(4) ばんたん親善運動会

5月31日に、第31回ばんたん親善運動会が開催され、利用者6名と職員2名が参加。悪天候により午前の部のみとなったが、皆さん積極的に競技に参加され、また、他事業所の方との交流も深めることができた。

(5) ばんたんゆうあい文化祭

11月24日、姫路市文化センター大ホールで「第28回ばんたんゆうあい文化祭」が開催され、利用者5名と職員2名が見学での参加をした。

(6) おつかれさん会

3月11日に1年間の締めくくりとしておつかれさん会を実施した。全員にケーキと飲み物を配り、1年間の作業や行事等をスライドショーにして上映し一年を振り返った。

Ⅲ 作業支援

1 作業内容

- (1) 作業は、ゴトウ・アズ・プランニング社との連携によるクリーニング作業のほか、自主事業として「納豆（なっとこちゃん）」（生活介護事業）の製造・販売を行った。
- (2) クリーニング作業については、昨年同様、作業リーダー制、休憩交代制を行い更なる利用者さんの自主性を伸ばす取り組みを進めていくとともに、新たに衛生面を配慮し仕分け作業を廃止するなど働き方の抜本的な見直しを行いつつ、作業効率の向上に努めた。11月より休憩交代制を廃止し通常通りの休憩時間とした。
- (3) 納豆作業では、来年度の新納豆作業所開設に向け、次の取り組みを行った。
  - ア 発酵機と冷蔵庫を増設し、作業班を無くすことで作業を効率・効果的に行い、生産量を増やした。また、職員間で製品のチェック体制を強化し、品質の維持・向上に努めた。
  - イ ヤマダストア現4店舗に加え、大津店、網干店の2店舗で販売を展開した。また、配達担当を設けるこ

とで近隣の福祉事業者に対して販路拡大を行うとともに、稲美乳販との取引を開始し個人宅の販路を拡大した。商品を通じた地域交流を推進するため、高砂市銀座商店街が主催する「朝ごぱん市」に新たに参加した。

ウ 成分やカロリーを計算した新たなラベルを作成し、2020年4月の食品表示の義務化に備えた。

エ 上記にあわせ、「たれ」、「からし」を良質なものと見直し、8年間据え置いた価格を改定、あわせて新たなパッケージにするなど、商品価値を高めることを目標に2020年4月に備えた。

オ その他バザー等への出店

- ・ 8月24日(土) ひょうごヒューマンフェスティバル 2019 in たかさご
- ・ 11月4日(土) 五色精光園祭に利用者3名と職員2名で参加
- ・ 10月28日(日) 加古川カトリック教会バザー

《便宜上の班分け及び主な作業内容》

ク リ ー ニ ン グ 班	仕分け	4人	大型洗濯機に投入する事前の仕分け作業。主として、シーツ類の仕分け
	シーツ	11人	シーツロール機等(シーツ乾燥・折りたたみ・結束等)、への投入や出荷管理
	タオル	9人	手作業によるタオルたたみ及び出荷管理
	たたみ	12人	衣類、布団、シーツ、タオル類のたたみ、包装及び出荷管理
納豆班	7人	納豆の製造、販売、商品名「なっとこちゃん」、乾燥コンニャクの販売	

※2020年3月23日より仕分け作業を廃止

2 作業収入と工賃支給

(単位:円)

	事 項	平成30年度	令和元年度	備 考
収 入	洗濯事業収入	19,029,512	19,138,176	ゴトウ・アズ・プランニング委託料
	納豆販売収入	4,278,860	4,193,281	自主生産事業
	公園清掃収入	62,500	62,500	高砂市からの委託料(楠公園清掃)
	計	23,370,872	23,393,957	
支 出	工賃支給額	20,444,070	19,648,890	
	作業経費	2,126,027	3,014,325	賃借料・水道光熱費・納豆材料費等
	消費税	797,220	730,742	
	計	23,367,317	23,393,957	
収支差額		3,555	0	

3 協力企業との関係

(1) クリーニング事業の協力企業・・・株式会社ゴトウ・アズ・プランニング

(2) ワークホームの設立時は、株式会社MAO(オノエクリーニング51%、ゴトウ・アズ・プランニング49%出資の合弁会社)が協力企業であったが、平成22年にゴトウ・アズ・プランニングがオノエクリーニングの出資分を買い取り、協力会社はMAOからゴトウ・アズ・プランニングに変更となった。

《ゴトウ・アズ・プランニングとの話し合いについて》

2019年度は、前年度から引き続き、安杖社長(ゴトウ・アズ・プランニング)と齋藤施設長、三原あかりの家施設長、藤原事務局長による現状の共有化と課題解決に向けた話し合いを計4回持った。また今年度より現場レベルでの調整を図る為の現場運営会議を計3回持った。

(経営会議開催日)	第1回	2019年	6月	1日	第2回	2019年	8月	8日
	第3回	2019年	11月	1日	第4回	2020年	3月	12日
(現場運営会議開催日)	第1回	2019年	12月	2日	第2回	2019年	12月	20日
	第3回	2020年	3月	18日				



#### 4 作業環境の継続的改善

- (1) 平成25年度から暑さ対策としての作業環境改善に取り組み、ルーファンの設置（2カ所）、排煙窓の新設工事（東西北面）を実施した。
- (2) 平成26年度は、シーツロール機の北側面に窓を新設し空気の入れ換えができる環境整備を実施した。
- (3) 平成27年度は、工場周辺のセメント舗装を実施し清掃がしやすい環境を整えたほか、工場内の安全通路の確保や立ち入り禁止区域の設定等、安全確保に重点を置いた環境整備を行った。
- (4) 平成28年度は、9月に駐車場を新たに新設し、仕分け班専用の更衣室を設置、施設内の電灯のLED化を完了、シーツ班投入機北側上部の窓を新たに増設、西側窓に遮光フィルムを貼る工事を行った。また、北側「松本商会」との賃借契約を3月末で解消した。
- (5) 平成29年度は、工場清掃の効率化を目的に1階南側に引き戸の大型出入口を設けたほか、採光と風通しを目的に工場内汚染区域に大型サッシ2基を設置した。また、医療関連サービスマーク認定に備えて洗濯場と仕上げ場の境界にビニールカーテンを設けるとともに、大型洗濯機の横と準汚染区域内消毒保管庫の横に手洗い場を設置するなど衛生環境の整備を実施した。
- (6) 平成30年度は、仕分け班の作業服をつなぎ服に変更するなど感染症対策を積極的に行った。また、仕分け班作業場に固定式の扇風機を設置し、作業環境の改善を図った。
- (7) 令和元年度は、5S活動の一環として作業後の作業場清掃を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策の一環として仕分け作業を廃止する方向でGOTOと協議し、3月に試行し次年度からの本格実施に備えた。このことはワークホームの歴史にとっては画期的なことであり、利用者全員が衛生区域で作業することになるとともに、仕分け作業の重労働からも解放されることとなった。

#### 5 工賃の考え方及び、「業績賞与」について

- (1) 工賃については、「ワークホーム高砂工賃支給要領」に基づいて支給した。基本的な考え方としては、事業にともなう純利益を工賃財源とし、年1回（10月）の工賃見直し評価を実施し、各自の作業能力を評価したうえで時間給に換算し、働いた時間数を掛け合わせて工賃を決める方法を採用した。
- (2) 平成28年度後期から始まった「業績賞与」については、2019年度においてもゴトウ・アズ・プランニング社から814,956円の業績賞与を支給していただいた。

#### 6 医療関連サービスマーク認定更新について

医療関連サービスマークは平成15年度に初めて認定を受け、以降3年に一度の頻度で更新している。

直近では、平成29年11月14日、更新のため日本病院寝具協会の審査を受け、平成30年2月1日付で再認定されている。次回の認定は2020年（令和2年）11月予定。

#### 7 就労支援について

クリーニング作業については、設立当初から「シーツ班」「たたみ班」「仕分け班」「タオル班」の4つに班分けを行い、利用者支援を実施してきた。しかし、平成29年度からは、作業班にこだわらない横断的な作業方法を取り入れ、利用者が様々な作業に挑戦できるよう環境を整えるなど丁寧な支援に努めた。その結果、利用者の作業可能種目が増えるとともに、作業効率が大幅にアップした。

2019年度はこれまでクリーニング班、納豆班と分けていたが、一つの作業班とし更なるシェアリングを実施。

## IV 健康管理・栄養管理

### 1 健康管理及び保健衛生等

- (1) 「保健衛生会議」を月1回開催し、嘱託医師である井野医師の指導のもと、利用者の健康管理や職場の衛生管理、作業環境管理・改善に努めた。
- (2) 定期的な健康診断と体重測定  
定期健康診断については、7月（利用者と職員）と1月（職員のみ）に実施し、その断結果については、井野嘱託医師に報告し指導を受けた。本年度は保護者さんや本人の協力が得られたことから、初めて朝食を摂らずに血液検査を実施することができた。  
「体重測定」については、偶数月に実施しBMI値の算出を行い、肥満の予防に努めた。特に気になる利用者については、体重を毎日測定し記録する中で本人の意識を高めるように支援した。  
また、糖尿病の利用者へは、糖尿病食を斡旋するなどの対策をおこなった。
- (3) 作業場に温度湿度計を設置し作業環境の把握に努めた。特に夏場は、休憩（30分に1回）や水分補給を



頻繁に行うなど、熱中症対策を重点的に行った。水分補給については、各利用者に水筒（平成28年度から保護者会より支給）1本を配布し、各自の一日の水分量を職員が把握しながら水分管理を行った。また、作業場の気温が30℃を超える5月～10月にかけてスポーツ飲料（ペットボトル1本500ml）を配付し熱中症対策を行った。特に本年度は、「クールネック」（首を冷材で冷やす道具）を採用し暑さ対策の強化を図った。

- (4) インフルエンザ・ノロウイルスなどの感染症対策については、看護師を講師とする学習会を開催し職員の知識を深めるとともに、対策として施設内での手洗いの励行やうがい心がけができた。また、手ピカジェルでの消毒や次亜塩素酸ナトリウムを使つてのトイレ清掃等についても継続してを行った。
- (5) 加古川歯科保健センターから派遣される歯科衛生士による歯磨き指導を利用者全員が受け、その結果を家庭に知らせ、必要な人については歯科治療をお願いした。また歯科衛生士による歯磨き指導を契機として、昼食後の歯磨きへの関心を高めることに努めた。本年度についても特に口腔内の汚れが多かった利用者については、職員が付き添い歯磨きを徹底的に行った。
- (6) 健康の維持管理については、利用者の年齢が高くなるに連れ「生活習慣病」の予防対策が重要になりつつあり、定期健康診断の結果を踏まえて積極的に受診を促した。また、受診に関して保護者の協力が得られにくい利用者については、職員が通院の支援を行った。
- (7) 利用者へ月1回の手洗い指導を行い、手洗いへの意識向上を図った。また、作業終了時等の手洗いやうがいについては、職員や看護師が積極的に声かけを行うなど、利用者の感染症予防に対する意識向上を図るよう努めた。
- (8) ゴトウ・アズ・プランニングの職員を含めた全職員を対象に、感染症の基礎と疥癬、MRSA、ノロウイルスの勉強会を行い、感染症に対する知識を深めるとともに感染症予防への意識を高めた。
- (9) グループホーム利用者を中心に生活習慣病罹患利用者は月1回の井野病院、歯科への定期通院の支援を行った。また風邪症候群や皮膚疾患などの出現に対しても病院受診の検討を行い、必要に応じて定期外受診の支援を迅速に行った。検査結果や内服薬などに関しては医師からの情報を正しく看護師から支援員に伝達しするよう努めた。
- (10) 専任の看護師が、週に2回グループホーム利用者に対し入浴支援と身体観察を行い異常の早期発見に努めた。
- (11) 新型コロナウイルスの感染予防対策を積極的に行った。具体的には、検温の実施、エタノール液（70%）による手指消毒、うがいの励行、中性次亜塩素酸水による施設内の除菌洗浄、マスクの着用、食事場面での非対面や十分な換気等による「3密（密閉、密集、密接）」の回避など、可能な限りの対策を実施した。

## 2 栄養・給食について

### 《 給食委員会の開催 》

利用者の昼食の充実と安心・安全を目的として、給食提供者（有限会社ひでかつ給食）と連携し、給食提供を行った。また、給食委員会を「ひでかつ給食」と連携して4回（5/29、8/7、11/6、2/19）開催するとともに現場見学（7/1）を行うなど、より良い給食の提供に努めた。

今年度は、「食のよろこび」について検討・協議し、お楽しみメニューで「牛丼」などの「丼もの」を提供した。また、昨年度に引き続きワークホーム高砂が製造する納豆「なっとこちゃん」を週3回提供した。

## V 利用者支援について

### 1 利用者支援

- (1) 働くことを軸に、社会性・協調性（仲間意識）を育み、仕事に自信と責任を持てるような支援に取り組んだ。個別支援計画を基本に個々の目標やテーマに添った関わりを大切にした。
- (2) 「働くことの基礎は生活にあり」を意識して、睡眠、食事、排せつなどの家庭における生活を見直し、「健康な生活づくり」を保護者と連携しながら取り組んだ。特に、一人暮らしの利用者については、通院付き添いや投薬、血圧・体重などの管理を行うとともに、保護者や本人の要望を受け歯科受診などの付き添いも積極的に行った。
- (3) 個別支援計画の見直しを兼ねた個別懇談会を本人・保護者・施設長（サービス管理責任者）・担当支援員同席で年2回（6か月に一度）実施した。内容は、作業面や生活面での支援に加え、GH体験利用や余暇の過ごし方なども盛り込んだ。そのため、GHを体験利用されるケースが増えている。
- (4) 本人や保護者の希望を踏まえて就労を目標に掲げた取り組みを行うとともに、働くことを生活の柱にした充実した暮らしづくりの応援を積極的に行った。



## 2 あかりの家との連携

- (1) あかりの家利用者のMさん、友愛の家利用者のYさん、Kさんを積極的に受け入れるとともに、利用者が混乱なくワークホーム高砂で働けるよう情報の共有に努めるとともに、必要な調整を行った。
- (2) 合同研修「職員が生きがいを持って輝けるプロジェクト」を開催し、法人内他事業と連携した研修を実施し、相互の事業に対する理解を深めた。

## VI 人権擁護、虐待防止の取り組み

虐待防止では、一日2回の引継ぎ時間を活用し、虐待案件について施設長が講義するなど職員の意識向上に取り組んだ。また、職員間で話し合える環境、“第三者が見たらどうか”など、対応を責めるのではなく客観的に自分を見る冷静さを養えるように心がけた。

人権擁護では、平成29年9月1日より、「ワークホーム高砂人権擁護委員会」を発足。同じく「ワークホーム高砂人権擁護委員会要領」を施行。職員一人ひとりが障害者の人権について考える機会を提供し、人権意識の向上をめざした。今年度は4月、6月、8月、11月、1月、2月に施設内研修やチェックリストによるセルフチェックを行うなど、定期的に職員間で話し合う場を設け、自己を見つめ直す取り組みを行った。

## VII 防災

- 1 危険物管理 地下タンク及び地下埋設配管について毎週点検し、記録に残した。(消防署の指導にもとづき毎月曜日点検実施)
- 2 防火管理 毎月1回、防火管理自主点検表による点検を実施した。
- 3 車両管理 担当者により概ね1か月に1回、点検を実施した。
- 4 セキュリティー 平成30年7月から新たに防犯カメラを敷地内に4箇所設置するとともに、事務所の防犯については継続してセキュリティーシステムを稼働させた。
- 5 防災訓練 2019年8月、2020年3月に避難訓練、通報訓練を実施した。(3月は消火訓練を予定していたが新型コロナウイルスの影響で消防署の立ち合いは無しとした)

## VIII 職員研修(施設外研修)・会議等(主なもの)

月	研修名	場所	参加者名
4	食品衛生責任者認定講習会	姫路	桂
5	兵庫県知的障害者施設協会定期社員総会 兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会事前説明会 兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会 ぱんたん親善運動会・実行員会共同月開催 にこにこレビュー会	神戸 神戸 神戸 加古川 神戸	齋藤 楠 桂 齋藤、長谷川、楠、重里、吉田 長谷川、桂
6	日本セルフセンター研究大会 障害者福祉施設新任職員研修 播淡地区施設長会役員会議 食品表示セミナー	東京 神戸 高砂 神戸	楠、長谷川 矢野、吉田 齋藤 吉田
7	全日本自閉症支援者協会総会 全国知的障害者関係施設長会議 播淡地区職員研修会 てんかん基礎講座 全国社会就労センター総合研究大会 クリーニング師研修 ひょうごヒューマンフェスティバル2019	東京 横浜 高砂 大阪 徳島 加古川 高砂	齋藤 齋藤 齋藤、楠、中右 久木原 桂 宮本 長谷川
8	播淡地区施設長・職員合同研修会 障害者の働く場パワーアップフォーラム クリーニング師研修 生産活動・就労支援部会研修会	姫路 大阪 西宮 明石	齋藤、楠 矢野、吉田 松藤 岡田

9	クリーニング従事者講習 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修） 播淡地区施設長・職員合同研究会 相沢食産納豆製造見学研修 福祉の集い 強度行動障害のある方への支援研修 次年度全自者協大会打ち合わせ会議	加古川 明石 姫路 福崎 神戸 西宮 滋賀	重里 矢野、吉田 齋藤、長谷川、宮本 桂、大谷、吉田 久木原 宮本 齋藤、長谷川、楠
10	クリーニング従事者講習 五色精光園祭	西宮 淡路	岡田 桂、吉田
11	クリーニング師研修 ワークホーム高砂保護者会施設見学研修会 全日本自閉症支援者協会研究大会 播淡地区職員研修会 播淡地区施設長役員会議 近畿地区知的障害者関係施設長会議 高砂市障害者交流事業障がい者疑似体験 虐待防止サービス従事者研修 ばんたんゆうあい文化祭 知的しょうがい者疑似体験研修 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修） クリーニング従事者講習	神戸 赤穂 埼玉 姫路 姫路 大阪 高砂 播磨町 姫路 高砂 神戸 神戸	楠 齋藤、楠、長谷川 齋藤、楠 齋藤、楠 齋藤 齋藤 楠、木澤、矢野、吉田 宮本、木澤 齋藤、桂、矢野 楠、木澤、吉田、矢野 矢野、吉田 矢野
12	就労支援フォーラムNIPPON2019 グループホーム職員研修会 播淡地区施設長役員会議 防災研修会（高砂市自立支援協議会） 県知協兵庫キャラバン事業 行動援護従事者研修（主催：パレット）	東京 尼崎 姫路 高砂 三木 神戸	宮本 木澤 齋藤 齋藤、木澤 齋藤 重里
1	賀詞交換会 行動援護従事者養成研修（主催：知的障害者施設協会） 播淡地区施設長役員会議 強度行動障害者養成研修（実践）	神戸 姫路 姫路 神戸	長谷川、久木原（保護者；光宗） 楠彩 齋藤 矢野、吉田
2	二市二町地域ケア協議会 近畿地区知的障害者関係施設職員研修会 播淡地区施設長役員会議 播淡地区施設職員代表会 全国社会就労センター長研修会 兵庫県サービス管理責任者等更新研修 強度行動障害者養成研修（実践）	加古川 神戸 神戸 姫路 神奈川 神戸 神戸	長谷川 齋藤、長谷川、木澤 齋藤 楠 齋藤 齋藤 矢野、吉田
3	播淡地区区会役員会 全日本自閉症支援者協会2020年度大会打ち合わせ会議	高砂 高槻	齋藤 齋藤

## Ⅷ 資格取得等

資格名称	取得者氏名
食品衛生管理責任者	桂 也人
強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）	吉田 まき、矢野 裕子
クリーニング師研修（更新研修）	楠 英充、宮本 翔、松藤 真典
行動援護従事者養成研修	重里 健介、楠 彩花
サービス管理責任者（更新研修）	齋藤 克己
クリーニング業務従事者講習	岡田 美咲、重里 健介、矢野 裕子



## X 施設サービス評価、苦情解決

### 1 施設サービス評価

本年度は受診せず

### 2 サービス苦情解決

年2回の保護者懇談会において保護者からの要望等を積極的に聞くように努めたほか、毎月の保護者会役員会や保護者会行事に施設長が参加し、保護者の要望等を積極的に聞くように努めた。

食堂に「意見箱」を設置し、ご本人からの意見を聞けるようにしている。また、平成31年1月に「ワークホーム高砂苦情解決」のルールを設定。以降、苦情や要望については「ワークホーム苦情解決報告書」に記録し職員間で共有するとともに、要望や苦情等の解決を図った。

苦情受付担当者 : 楠英充

苦情解決責任者 : 今津房子(理事)/齋藤克己(理事・施設長)

第三者委員 : 富士原 一成(前高砂市社協理事長)、高尾 剛一(あかりの家 元監事)

## X I 地域支援

### 1 見学・実習

事 項	内 容	
1 施設見学	12月3・4日 11月12日	曾根小学校(4年生) 東はりま特別支援学校(生徒36名、教員14名)
2 特別支援学校実習	10月7日～11日	東はりま特別支援学校(1名)
3 学生社会福祉実習	9月2日～6日 9月16日～27日 10月21日～11月1日 1月30日～2月14日	関西福祉大学3回生(2名) 神戸教育短期大学1回生(2名) 神戸教育短期大学1回生(2名) 姫路福祉保育専門学校2年生(3名)

### 2 講師派遣

研修名	主催者	派遣日	派遣職員
高砂市育成会研修会	高砂市育成会	2019年6月17日	施設長 齋藤 克己
兵庫県育成会東播磨ブロック研修会	兵庫県育成会東播磨ブロック	2019年11月29日	施設長 齋藤 克己
行動援護従事者養成研修	NPO 法人パレット	2019年12月1日	施設長 齋藤 克己

## X II 地域交流

### 1 人権学習

12月3・4日の2日間にわたり、曾根小学校4年生4学級の児童が今年も人権学習のために当施設を訪れた。2日間4回に分け、付き添いの教諭や児童と利用者との交流や作業体験を行っていただき、より実感のある人権教育の促進に寄与した。

### 2 機関紙の発行

毎月、保護者通信「月刊ワークホームだより」を発行し、保護者に配布するとともにホームページで公表した。また、地域の方や関係者にも配布した。(配布先:保護者、地域の関係者や協力企業、理事・評議員等)

### 3 ホームページの更新

ワークホーム高砂のホームページを平成27年度に県立総合リハセンター内の重度障害者在宅就労者の会 e-work に作成を依頼し、「月刊ワークホームだより」の発刊の都度、掲載更新した。メンテナンスについては、令和1年7月1日から令和2年6月30日までの期間で再契約した。

### XIII 保護者会活動

#### 1 年間活動について

##### (1) 保護者会主催事業

- ①保護者会総会 ②WH環境整備、工場清掃 ③父親の会 ④クリスマス会（忘年会） ⑤保護者研修会  
⑥一年を振り返る会 ⑦ 親子レクリエーション行事（バーベキュー大会）

##### (2) ワークホーム高砂との共催行事

- ①保護者参観 ②保護者懇談会

##### (3) 本部・企画委員会（役員会）

- ①毎月1回開催

#### 2 年間行事実績

	日 程	会議・行事等	内 容	参加数
4月	4月14日（日） 10:00~12:00	平成30年度最終 本部・企画委員会	・総会準備、打ち合わせ 等	12名
5月	5月19日（日） 10:00~11:30	《保護者会総会》 《ミニ研修会》	・2019年度事業計画の審議 ・研修会 講師：久木原洋子看護師	32名
	13:00~14:30	第1回本部・企画委員会	・環境整備行事について など ・保護者研修会 父親の会親子レク等	12名
6月	6月2日（日） 10:00~11:30 11:30~12:30	《第1回環境整備、工場清掃》 ※7月の同様の行事へ参加を促した。	・駐輪場の草引き、工場の清掃 ・昼食を摂りながら懇談	41名
	13:00~14:30	第2回本部・企画委員会	・環境整備行事についてなど ・保護者研修会、父親の会親子レクなど	9名
7月	7月7日（日） 10:00~11:30 11:30~12:30	《第2回環境整備、工場清掃》 ※6月行事に参加できなかった 人に参加を促した	・駐輪場の草引き、工場の清掃 ・昼食を摂りながら懇談	28名
	13:00~14:30	第3回本部・企画委員会	・父親の会・親子レク行事について 等	8名
8月	8月12日（月） 8月17日（土）	《保護者参観》 保護者の参加可能日を選択	・保護者がWHに出向き、働くところを 参観するとともに、保護者に作業の体 験をしていただいた。	5名
	8月25日（月） 10:00~12:00	《保護者会研修会》 「親亡き後を考える」 講師：梅谷司法書士	・後見制度や信託制度など、親亡き後の 課題などについて考える。	33名
	13:00~15:00	第4回本部・企画委員会	・親子レク行事について、父親の会、 保護者研修会など	19名
	8月12日 ～ 9月19日	《保護者懇談会（前期）》	○保護者がWH職員と利用者の日常につい て話し合うとともに、個別支援計画の確 認を行った	全利用 者と保 護者
9月	9月22日（日） 10:00~14:00	第5回本部・企画委員会	・父親の会、保護者研修会 など	13名
10月	10月27日（日） 9:30~13:30	《父親の会&親子レクリエーシ ョン行事：バーベキュー》	・父親を対象とした集う会、及び親子レ ク行事	65名
	13:30~15:00	第6回本部・企画委員会	・保護者研修会、クリスマス会 など	9名
11月	11月17日（土） 9:00~15:00	《保護者研修会》 赤穂精華園の見学	・兵庫県下最大規模の施設・事業所を有 する赤穂精華園を見学	28名
	15:00~16:30	第7回本部・企画委員会	・クリスマス会 など	14名



12月	12月 1日 (日) 9:00~10:00	第8回本部・企画委員会	・クリスマス会、一年を振り返る会など	16名
	12月 15日 (日) 10:00~12:00	《クリスマス会 (忘年会)》	・ユーアイ帆っとセンター	72名
1月	1月 26日 (日) 10:00~12:00	第9回本部・企画委員会	・一年を振り返る会 など	12名
2月	2月 23日 (日) 10:00~12:00	《一年を振り返る会》	・活動の振り返り、次年度活動の意見交換 など	48名
	13:00~15:00	第10回本部・企画委員会	・次年度役員、活動についてなど	15名
	2月 23日 ～ 3月 30日	《保護者参観》	・保護者がWH職員と利用者の日常について話し合った	全利用者 と保 護者
3月	3月 15日 (日) 10:00~12:00	第11回本部・企画委員会	・次年度総会に向けた準備 など	13名
4月	4月 14日 (日) 10:00~12:00	第12回本部・企画委員会	・総会の準備 など	16名

#### XIV 総務関係

##### 1 職員の採用・退職・異動 (2019年4月1日~2020年3月31日)

###### (1) 採用

・正規	支援員	4人 (2019年 4月 1日付)
	支援員	1人 (2020年 1月 1日付)
	支援員	1人 (2020年 3月 1日付)
・嘱託職員	支援員	1人 (2019年 9月 1日付)
・パート職員	支援員補助	12人 (2019年 4月 1日付 他)

###### (2) 退職

・正規職員	支援員	2人 (2020年 3月 31日付)
・嘱託職員	支援員	1人 (2019年 7月 31日付)
	支援員	1人 (2019年 12月 31日付)
・パート職員	支援員補助	4人 (2019年 8月 29日付 他)

##### 2 職員構成 (希望山荘日笠、オリーブの家含む)

(2020. 3. 31現在)

(単位:人)

身分・所属 \ 職種		施設長	医 師	支援員	作業 支援員	支援員 補助	事務員		看護師	計
正規・嘱託 職員	男	1		9	1					11
	女			5			1			6
	計	1		14	1		1			17
補助職員 (パート)	男					2				2
	女					11			1	12
	計					13			1	14
合 計		1	(1)	14	1	13	1		1	31 (1)

※ ( ) は嘱託医師 ※2 年度末に退職する職員を含めて記載

##### 3 職員年齢構成 (希望山荘日笠、オリーブの家含む)

(2020. 3. 31現在)

(単位:人)

身分・所属 \ 年代	~20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代~	計
正規・嘱託 職員	6	6	3	1	1	17
補助職員	1	1	1	5	6	14
合 計	7	7	4	6	7	31

# 2019(R1)年度 グループホーム(共同生活援助)事業報告書

## 1 施設の名称、定員(現員)及び所在地

名称	定員(現員)	所在地
希望山荘日笠	10人(10人)	兵庫県高砂市曾根町1704-4
オリーブの家	7人(6人)	兵庫県高砂市阿弥陀町魚橋375-16
友愛の家	6人(6人)	兵庫県高砂市曾根町1704-5

## 2 利用者(入居者)の状況

《希望山荘日笠》

(2020. 3. 31現在)

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
女性	50	A	区分5	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H 6. 4. 1~
男性	60	A	区分5	あすなろ学園(生活介護)通所	高砂市	H14. 7. 1~
女性	58	A	区分5	こころね(就労B)通所	高砂市	H27. 6. 15~
男性	35	A	区分4	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H27. 10. 1~
男性	36	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H27. 10. 1~
女性	39	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H28. 4. 1~
男性	47	A	区分4	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~
女性	39	B1	区分2	ワークホーム高砂(就労B)通所	加古川市	R1. 5. 1~
男性	32	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~
女性	39	A	区分4	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~

《オリーブの家》

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
男性	53	B1	区分5	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H6. 4. 1~
男性	46	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H25. 11. 1~
男性	39	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	R1. 5. 17~
男性	49	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H27. 5. 1~
男性	46	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	播磨町	H28. 9. 1~
男性	35	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H29. 4. 1~

《友愛の家》

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日
男性	36	A	区分5	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	34	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	24	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	39	A	区分5	あかりの家(生活介護)通所	姫路市	H29. 8. 1~
男性	49	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	加古川市	H29. 9. 1~
男性	52	A	区分4	あかりの家(生活介護)通所	播磨町	H30. 3. 24~

利用者の平均年齢=42. 6 歳

## 3 職員

(2020. 3. 31現在)

職 種	常勤・非常勤・兼務等	性別	年齢
管理者	あかりの家副施設長兼務	男性	60
サービス管理責任者	管理者兼務		
生活支援員兼世話人	常勤	女性	49
	常勤	男性	32
	常勤	女性	34
	常勤	男性	27
	常勤	男性	38
	常勤	女性	32
世話人	非常勤(パート)	女性	56
	非常勤(パート)	女性	59
	非常勤(パート)	女性	49



#### 4 運営について

##### (1) グループホームの安定的な運営と安全で安心なホームづくり

重度の自閉症者や知的障害者が地域の中で必要な支援を受けながら安心して暮らせるグループホームとして、安定的な運営を図った。

また、夜間の安全を守るための「宿直」体制については、あかりの家やワークホーム高砂の協力を得て、法人全体で支える仕組みを継続し、職員間の連携を更に強めながら、支援体制を確保した。

さらに、定期的な生活器具の安全点検や避難訓練を実施する(2019年12月と2020年3月)など、安全で安心なホームづくりに取り組んだ。

##### (2) 入居者の豊かな暮らしの創造

豊かで広がりのある暮らしづくりのため、入居者の自由時間の充実、特に休日の過ごし方について、できるだけ多様な過ごし方が体験出来るよう努めるとともに、外出機会などを積極的に設けた。

具体的には、日常的に買物や散歩に出かけたり、ワークホーム高砂が実施するバーベキュー大会やクリスマス会などの季節行事に参加した。また、可能な利用者については、移動支援(ヘルパー)を活用した外出も実施した。

##### (3) 入居者の健康管理の充実

入居者の健康管理の充実を図るため、定期的な医療機関への受診(歯科、耳鼻科、内科など)に加え、成人病予防などを意識した食事の提供、適度な運動の確保などに努めた。

##### (4) 体験宿泊の継続実施

グループホーム希望山荘日笠とオリーブの家の空き部屋を活用し、地域の在宅障害者が親元を離れて生活体験をする「体験宿泊」を積極的に位置づけ、在宅障害者の地域生活を支援した。ワークホーム高砂の2人の利用者が述べ9日利用した。

##### (5) 支援員、世話人の専門性の向上に向けた取り組み

入居者の生活の質の向上や安全で安心な生活づくりのためには、支援員や世話人の専門性の向上が欠かせないことから、

職員の資質向上のための研修機会を積極的に設けた。

##### (6) 希望山荘日笠の定員増

希望山荘日笠では昨年度に増築工事を行い、2019年5月1日には定員を6名から10名とした。同時に新たな利用者を受け入れることで、満床で運営を開始した。